

## (2) 第2回ワークショップ

① パワーポイント

② 配布資料

③ 結果

④ 議事録

---

① パワーポイント資料

---

## 第2回ワークショップ

テーマ：敷地利用、平面プラン、複合施設・機能  
に対する意見交換

2023.8.20 (日) 午前9時~12時  
川里支所 会議室

鴻巣市教育委員会 教育総務課

1

### ■本日のスケジュール

開会

1. 前回ワークショップの報告
2. 事業計画について Q&A
3. 計画説明 ①案、②案 / グループによる意見交換
4. 計画説明 ③案、④案 / グループによる意見交換
5. 計画説明 ⑤案 / グループによる意見交換
6. 発表
7. 総括

閉会

第2回 ワークショップ

2023.8.20 (日)

2

### ■前回ワークショップの報告

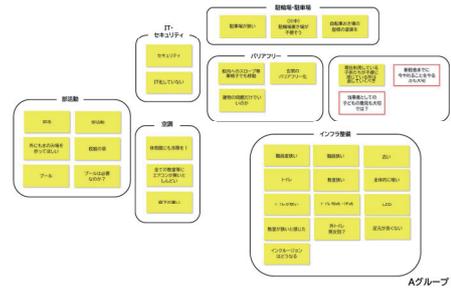
## テーマ1：既存校舎の課題

第2回 ワークショップ

2023.8.20 (日)

3

### ■前回ワークショップの報告

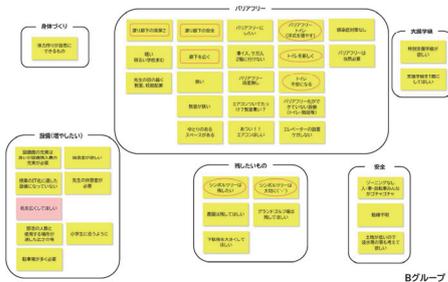


第2回 ワークショップ

2023.8.20 (日)

4

### ■前回ワークショップの報告

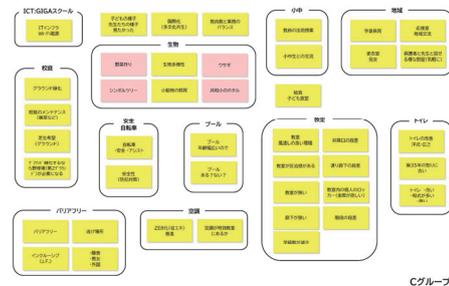


第2回 ワークショップ

2023.8.20 (日)

5

### ■前回ワークショップの報告



第2回 ワークショップ

2023.8.20 (日)

6

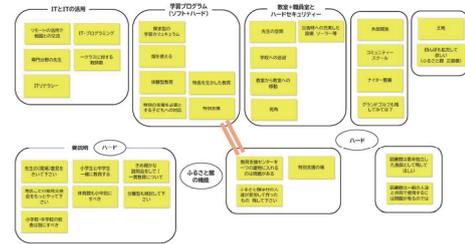
■前回ワークショップの報告

テーマ2：小中一貫教育に期待すること

第2回 ワークショップ 2023.8.20 (日)

7

■前回ワークショップの報告

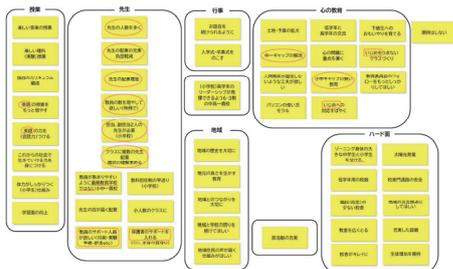


Aグループ

第2回 ワークショップ 2023.8.20 (日)

8

■前回ワークショップの報告

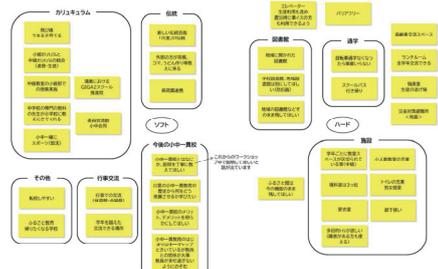


Bグループ

第2回 ワークショップ 2023.8.20 (日)

9

■前回ワークショップの報告



Cグループ

第2回 ワークショップ 2023.8.20 (日)

10

事業計画について  
Q&Aの報告

(お手持ちの資料をご覧ください)

第2回 ワークショップ 2023.8.20 (日)

11

■各グループに分かれ自己紹介、リーダー決定

- グループ内自己紹介
- リーダーを決めてください
- 発表者を決めてください

第2回 ワークショップ 2023.8.20 (日)

12

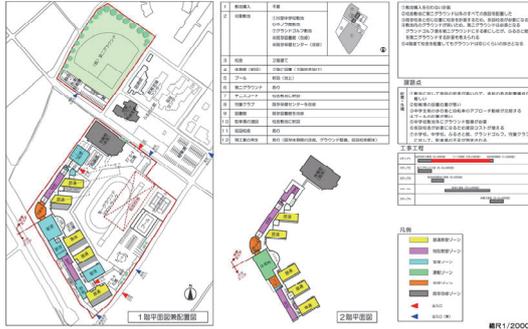
# 計画説明 (全5案)

第2回 ワークショップ

2023.8.20 (日)

13

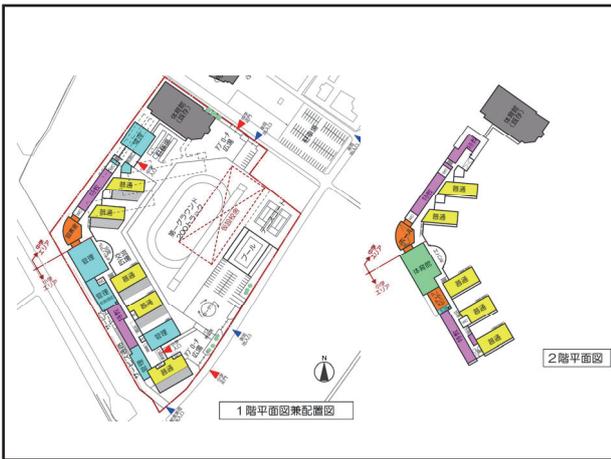
## ■計画説明 ①案:敷地拡張なし・南側グラウンド



第2回 ワークショップ

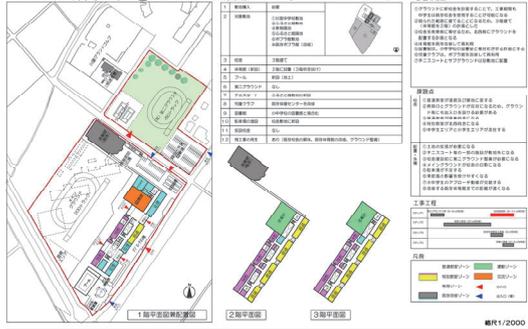
2023.8.20 (日)

14



15

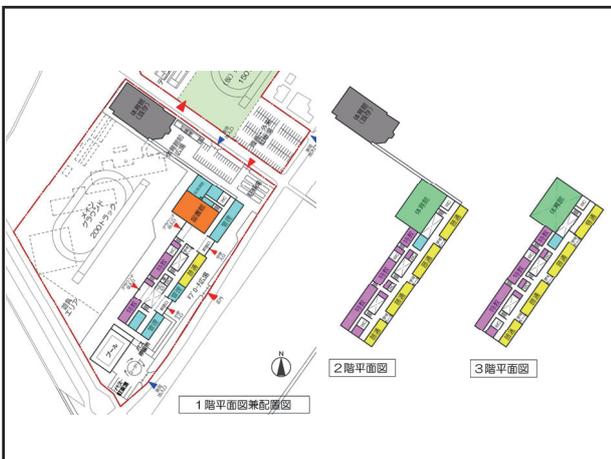
## ■計画説明 ②案:一部 敷地拡張・北側グラウンド



第2回 ワークショップ

2023.8.20 (日)

16



17

## ■グループによる意見交換

今回のテーマは

- ①敷地利用
- ②平面プラン
- ③複合施設・機能
- ④その他

第2回 ワークショップ

2023.8.20 (日)

18

■グループによる意見交換

テーマ

1. ①案、②案についての意見交換（20分間）

使用するふせんの色

ピンク …… 1回目の意見

イエロー …… 2回目の意見

第2回 ワークショップ

19

■グループによる意見交換

まとめ（5分間）

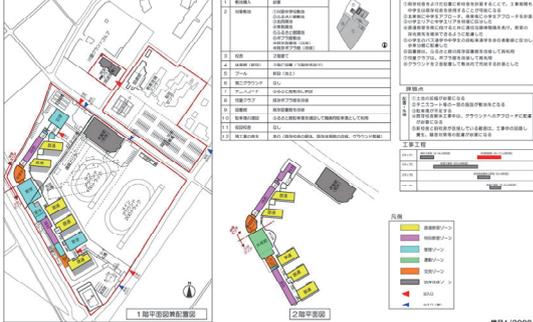
- 意見のまとめ
- グループিং
- 発表準備

第2回 ワークショップ

2023.8.20（日）

20

■計画説明 ③案:北西側 敷地拡張・2階建て



第2回 ワークショップ

2023.8.20（日）

21



22

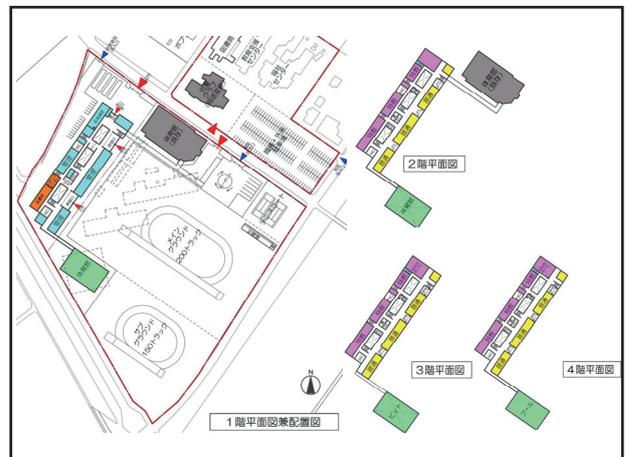
■計画説明 ④案:北西側 敷地拡張・4階建て



第2回 ワークショップ

2023.8.20（日）

23



24

## ■グループによる意見交換

第2回 ワークショップ

2023.8.20 (日)

25

## ■グループによる意見交換

### テーマ

2. ③案、④案についての意見交換 (20分間)

使用するふせんの色

ブルー …… 1回目の意見

イエロー …… 2回目の意見

第2回 ワークショップ

26

## ■グループによる意見交換

### まとめ (5分間)

- 意見のまとめ
- グループピング
- 発表準備

第2回 ワークショップ

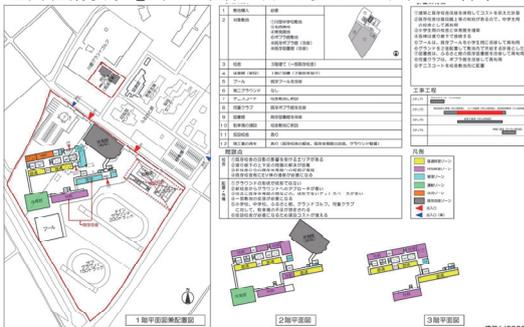
2023.8.20 (日)

27

休憩 (15分間)

28

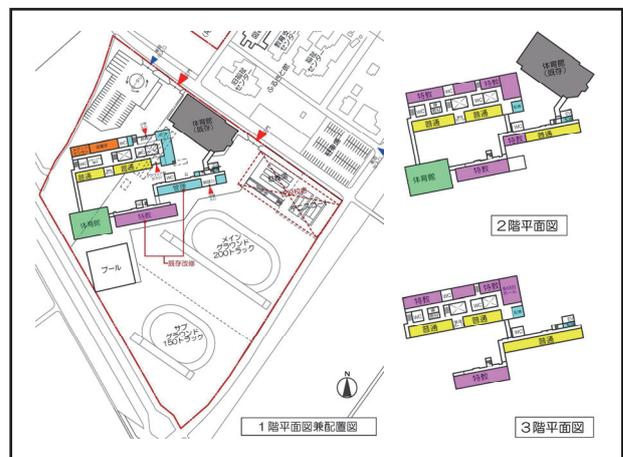
## ■計画説明 ⑤案:北西側 敷地拡張・改修+増築



第2回 ワークショップ

2023.8.20 (日)

29



30

## ■グループによる意見交換

第2回 ワークショップ

2023.8.20 (日)

31

## ■グループによる意見交換

### テーマ

### 3. ⑤案についての意見交換 (10分間)

使用するふせんの色

パープル . . . . . 1回目の意見

イエロー . . . . . 2回目の意見

第2回 ワークショップ

32

## ■グループによる意見交換

### まとめ (5分間)

- 意見のまとめ
- グルーピング
- 発表準備

第2回 ワークショップ

2023.8.20 (日)

33

## ■発表 (準備5分間)

第2回 ワークショップ

2023.8.20 (日)

34

## ■発表

- グループA→B→Cの順で発表を行います
- 各グループ発表 (3テーマ) [10分]

第2回 ワークショップ

2023.8.20 (日)

35

## ■次回の案内

- 日時：11月26日(日) 9時00分～11時00分
- 場所：川里支所 会議室
- テーマ：「新設校計画のまとめ、今後の課題整理」

第2回 ワークショップ

2023.8.20 (日)

36

本日はありがとうございました

②配布資料

---

# 川里地域小中一貫教育校新設に係る ワークショップ

日時:令和5年8月20日(日)

9時00分~12時00分

場所:川里支所 会議室

第2回ワークショップ開催:8月20日

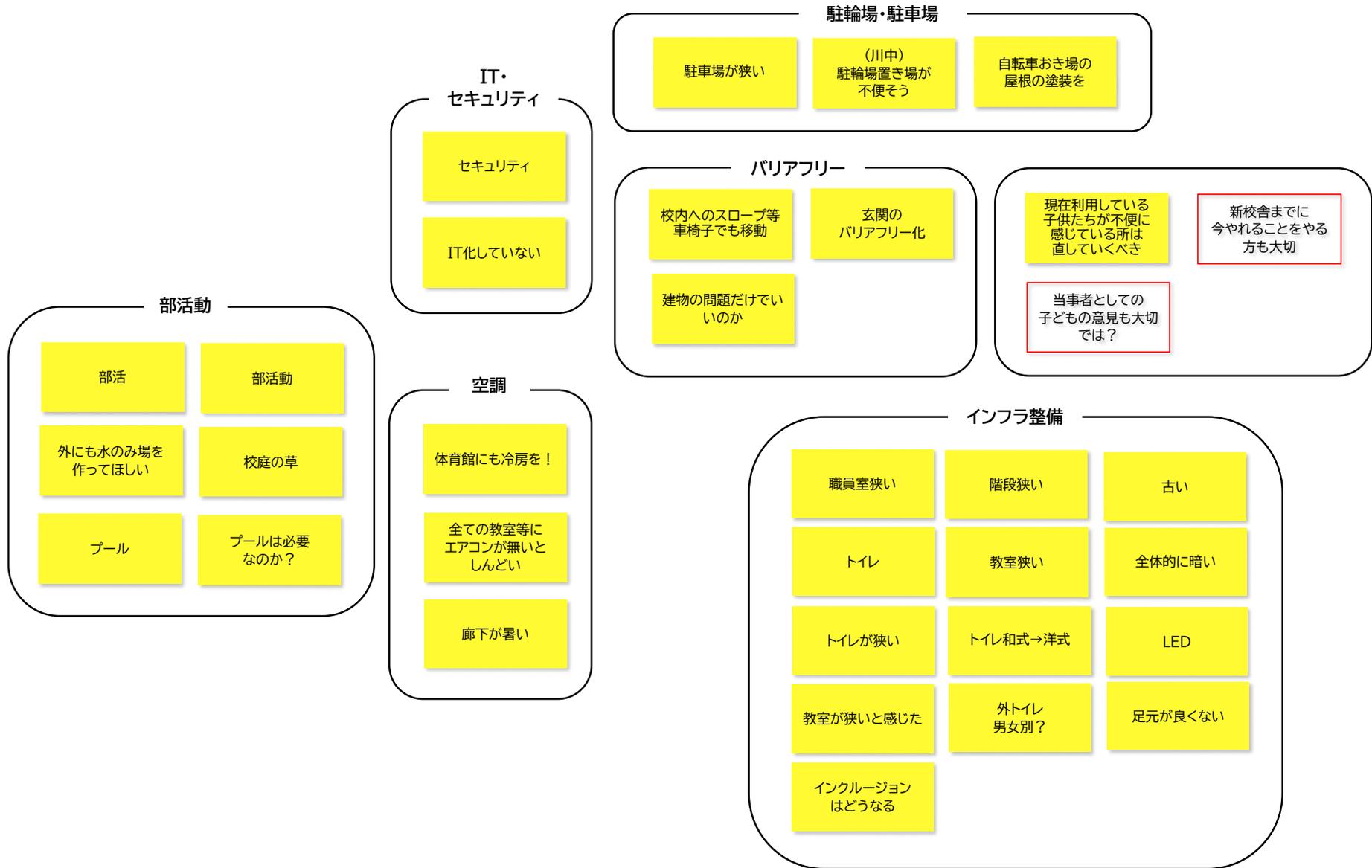
## タイムスケジュール

8:45 ~	受付
9:00 ~ 9:05	開会
9:05 ~ 9:10	前回ワークショップの報告
9:10 ~ 9:25	事業計画について Q&A / 質疑応答
9:25 ~ 9:30	各グループに分かれ自己紹介 / リーダー決定
9:30 ~ 9:40	計画説明 ①案、②案
9:40 ~ 10:05	グループによる意見交換
10:05 ~ 10:15	計画説明 ③案、④案
10:15 ~ 10:40	グループによる意見交換
10:40 ~ 10:55	休憩
10:55 ~ 11:00	計画説明 ⑤案
11:00 ~ 11:15	グループによる意見交換
11:15 ~ 11:20	発表準備
11:20 ~ 11:50	発表 各グループ 10分程度
11:50 ~ 12:00	講評・閉会/事務連絡
12:00	解散

## [ワークショップスケジュール]

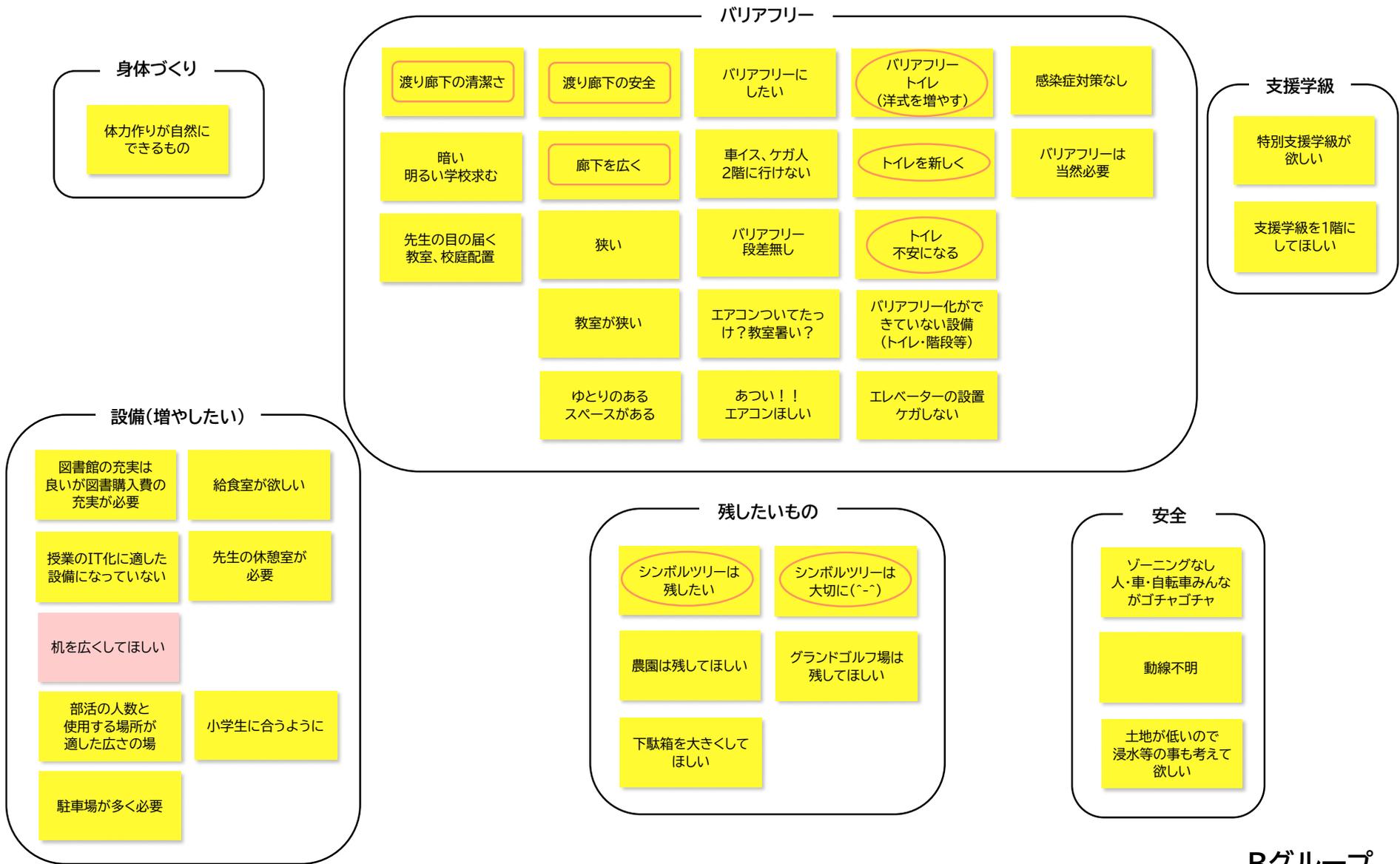
回数	開催日時	内容
第1回	6月25日(日) 9時00分～12時00分 ふるさと会館 会議室	◆テーマ1 「新設校計画に向けて概要説明、意見・要望・課題の整理」 1. プロポーザル案紹介・参考事例紹介 2. 既存校舎見学 3. 意見交換
第2回	8月20日(日) 9時00分～12時00分 川里支所 会議室	◆テーマ2 「建物規模・必要機能・複合施設の検討」 1. 敷地利用に対する意見交換 2. 平面プランに対する意見交換 3. 複合施設・機能に対する意見交換
第3回	11月26日(日) 9時00分～11時00分 川里支所 会議室	◆テーマ3 「新設校計画のまとめ、今後の課題整理」 1. 基本計画プランに対する意見交換 2. 今後の課題・要望に対する意見交換

# 『テーマ1:既存校舎の課題』



Aグループ

# 『テーマ1:既存校舎の課題』



Bグループ

# 『テーマ1:既存校舎の課題』

### ICT:GIGAスクール

- ITインフラ  
Wi-Fi電源

- 子どもの様子  
先生たちの様子  
見たかった
- 国際化  
(多文化共生)
- 教員数と業務の  
バランス

### 小中

- 教員の出前授業
- 小中生との交流

### 地域

- 学童保育
- 応接室  
地域交流
- 更衣室  
男女
- 保護者と先生と話せる  
様な部屋(気軽に)

### 生物

- 野菜作り
- 生物多様性
- ウサギ
- シンボルツリー
- 小動物の飼育
- 共和小のホタル

- 給食  
子ども食堂

### 校庭

- グラウンド緑化
- 校庭のメンテナンス  
(雑草など)
- 芝生希望  
(グラウンド)
- グラウンド緑化するなら  
野球場(第2グラウンド)  
が必要になる

### 安全 自転車

- 自転車  
・安全・アシスト
- 安全性  
(防犯対策)

### プール

- プール  
年齢幅広いので
- プール  
ある?ない?

### 教室

- 教室  
風通しの良い環境
- 昇降口の段差
- 教室が圧迫感がある
- 渡り廊下の段差
- 教室が狭い
- 教室内の個人のロッカー  
(金庫が欲しい)
- 廊下が狭い
- 階段の段差
- 学級数が減少

### トイレ

- トイレの改善  
洋式・広さ
- 築35年の割りに  
古い
- トイレ・汚い  
・和式が多い  
・狭い

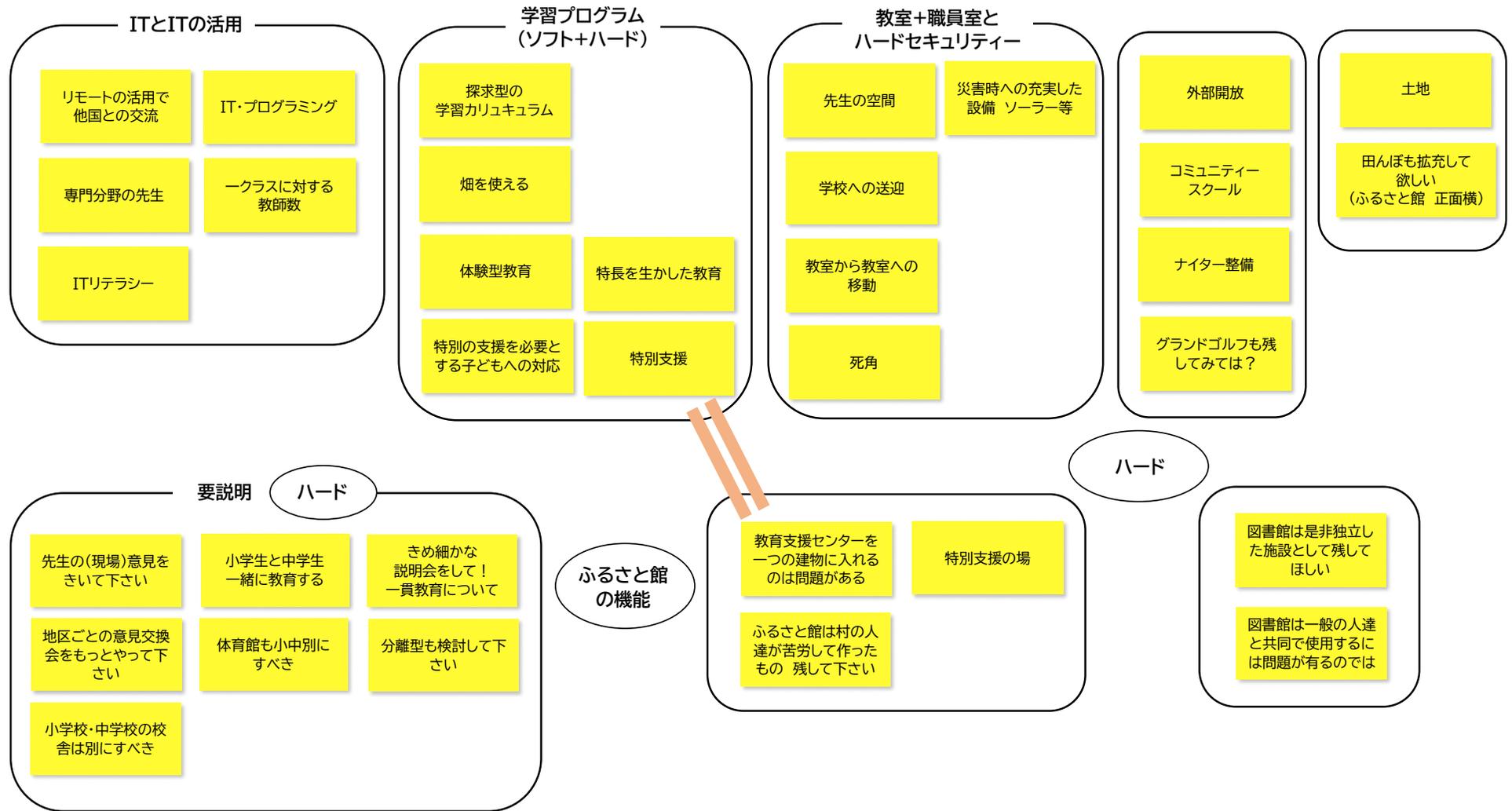
### バリアフリー

- バリアフリー
- 逃げ場所
- インクルーシブ  
(J.F.)
- ・障害  
・男女  
・外国

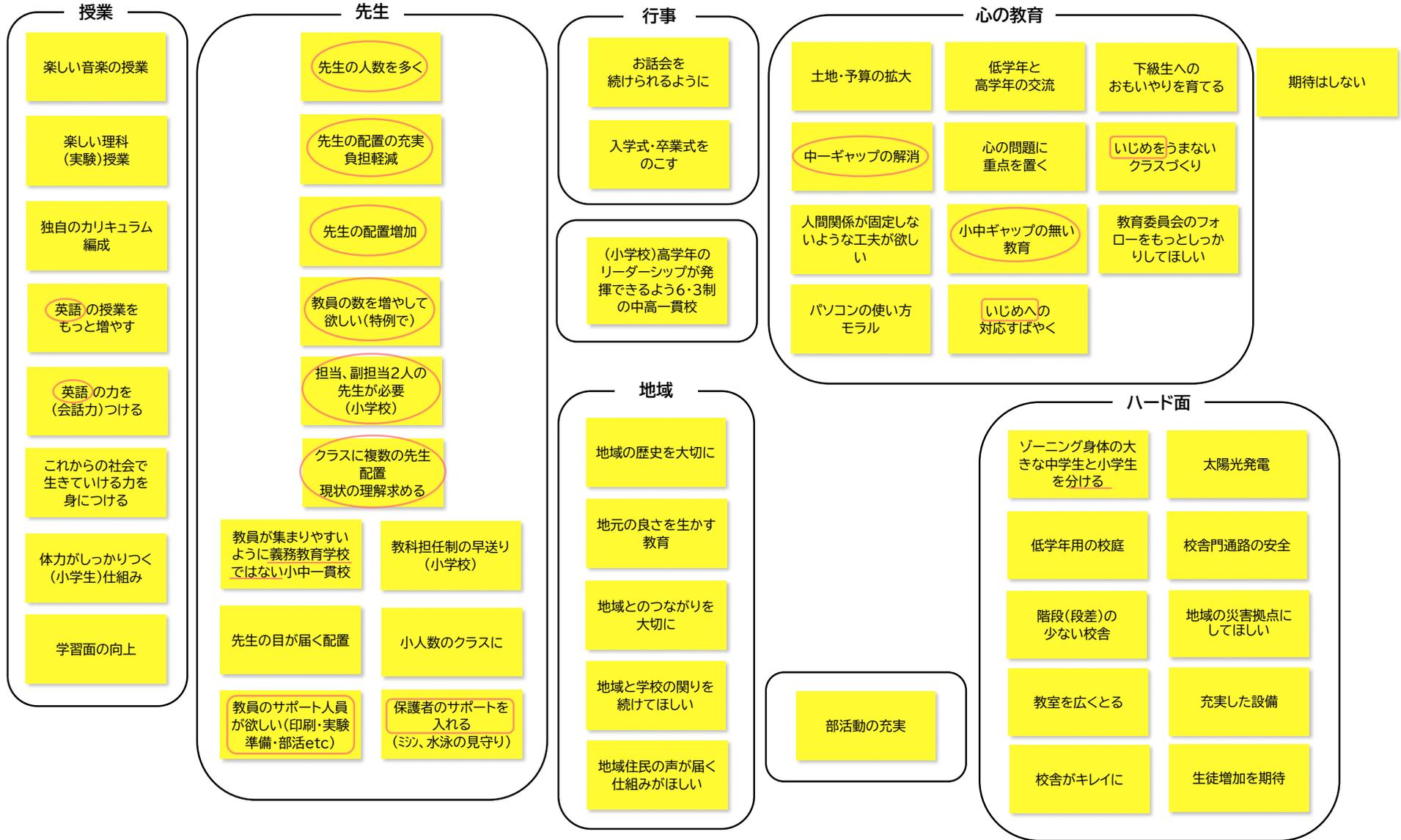
### 空調

- ZEB化(省エネ)  
推進
- 空調が特別教室  
にあるか

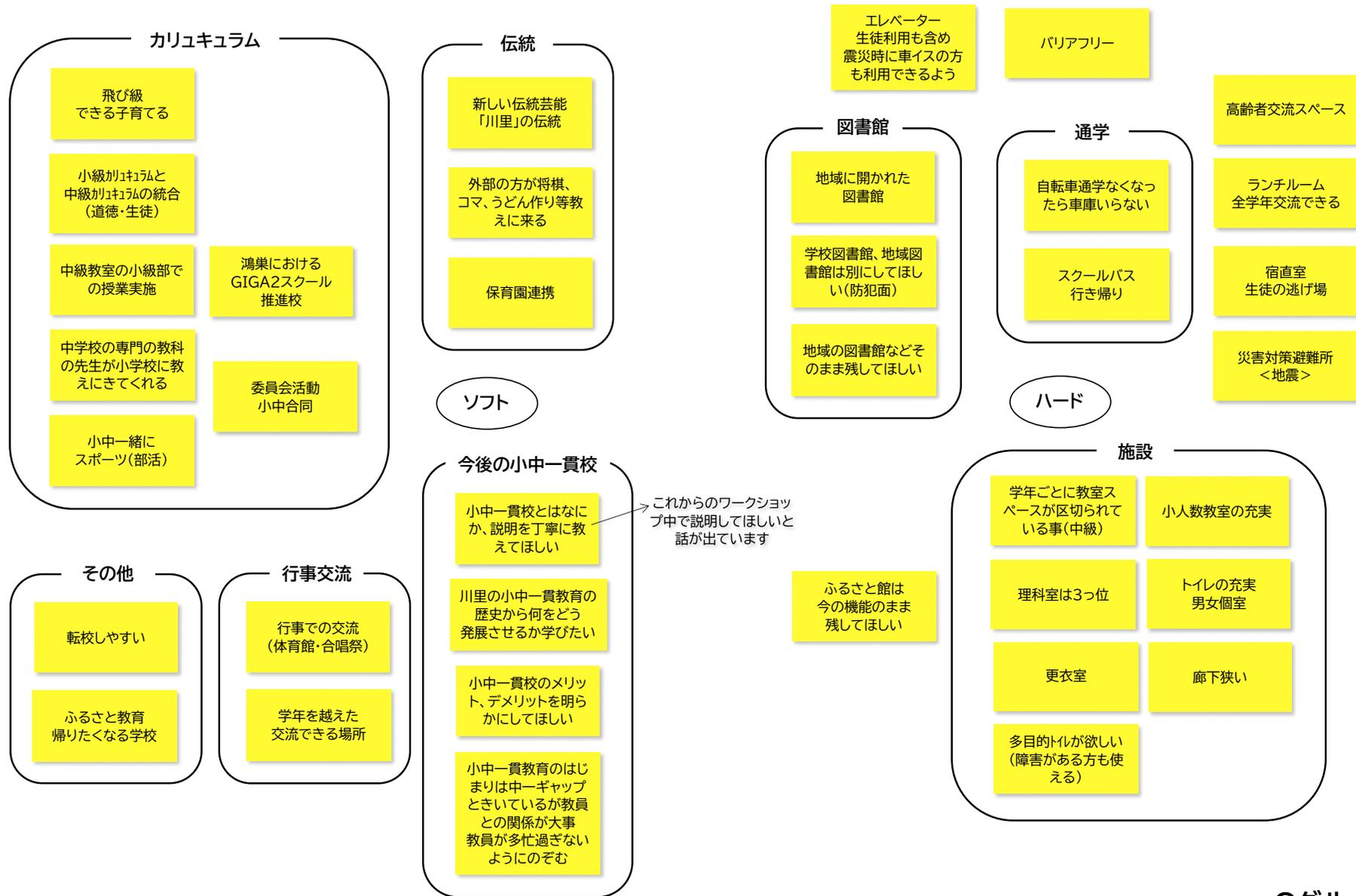
# 『テーマ2:小中一貫校に期待すること』



# 『テーマ2:小中一貫校に期待すること』



# 『テーマ2:小中一貫校に期待すること』



## 『小中一貫教育に関する Q&A』

### 質問1 なぜ川里地域において学校新設を検討しているのか？

共和小学校は、児童数が一桁になる学年も出てきており、小規模化が進んでいる一方で、屈巢小学校や広田小学校では、児童数が維持されており、35人学級等における教室数の不足等が問題となっています。

また、3校全ての施設面において、施設の老朽化やバリアフリーへの対応といった課題があります。

校舎の大規模改修を検討する場合でも、市内にはより古い校舎もあり、雨漏り改修、外壁の劣化等、命にかかわる部分が優先となります。また、公共施設等総合管理計画の観点からも3校全ての大規模改修は現実的に難しいものとなります。

川里中学校区では、平成23年から埼玉県の小中一貫教育推進事業モデル地区の指定を受け小中一貫教育の研究と実践を重ねております。現在も取組は継続されていて、不登校の出現率や学力の向上において、効果が表れています。施設一体型の小中一貫校又は義務教育学校を新設することにより、今まで取り組んできた小中一貫教育をさらに充実させ、時代に合った、より良い教育を受けることができる、又川里地域の新たな拠点として、子育て世代を呼び込むことのできる学校を目指していきたいと考えています。

### 質問2 小中一貫教育とはどのような教育なのか？

小中一貫教育とは、「小・中学校が目指す子ども像を共有し、9年間を見通した教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育」のことを指します。

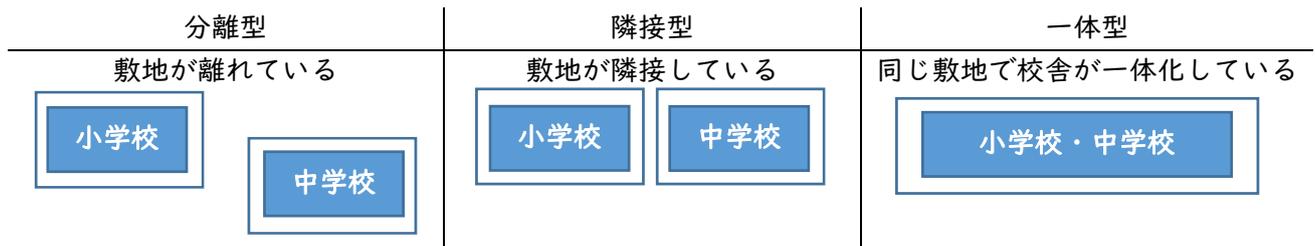
校舎が同じ敷地内にあること（施設一体型）や、校舎が別の敷地にあること（施設分離型）にかかわらず、小中一貫教育を行う学校制度としては、大きく分類すると、「義務教育学校」と「小中一貫校」の2つの形があります。

#### 【小中連携、小中一貫校、義務教育学校の関係】

小中連携教育	・小学校・中学校の教員が情報交換や交流を行う。
小中一貫校	・目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成 ・小学校・中学校は <b>組織上、独立</b> している
義務教育学校	・目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成 ・小学校・中学校の <b>組織が一体化</b> (一人の校長、一つの組織)

※別紙「小中一貫校と義務教育学校の比較」参照。

【施設の設置パターン】



質問3 小中一貫教育校の設置累計数は？

全国での義務教育学校の設置状況は、平成29年度：48校、30年度：82校、31年度：94校、令和2年度126校、令和3年度：151校となっており、当初の想定を超えて設置が進行する状況となっています。「小中一貫型小学校・中学校」の設置累計予定数は、令和5年度以降で525校にのぼるとされており、さまざまな類型の小中一貫教育校の設置が広範囲に拡大しています。

質問4 川里地域における小中一貫教育の取組及び成果は？

川里中学校区は平成23年～25年度に県の小中一貫教育推進モデル地区として、平成26年度からは「鴻巣市小中一貫教育推進モデル中学校区」として、研究と実践を重ねてきました。

(取組内容)

(1) 教員交流部会の実践

- ・ 出前授業  
⇒ 中学校の教員が川里中学校区3小学校に出向き、出前授業を実施。
- ・ ティームティーチング  
⇒ 各小学校の教員が中学校1年の授業に入り、教員2人体制で生徒の学習支援に当たる。
- ・ 教職員の合同研修会の開催

(2) 児童生徒交流部会の実践

- ・ あいさつ運動  
⇒ 中学生が、朝の登校途中に、出身小学校の門で小学生の登校時に、元気にあいさつを交わし合う取組で、各学期各1週間実施している。
- ・ 林間学校の事前合同練習、合同実施
- ・ 体育祭、運動会での交流
- ・ 中学生社会体験チャレンジ
- ・ 3小学校合同授業  
⇒ 小学校6年生が、中学校の教室を使い、中学校の日課表に合わせ、3校の児童を2～3クラスに均等に分けて実施。
- ・ 部活動体験（6年生）
- ・ 保育園と小学校の交流活動

### (3) 生徒指導部会の実践

- ・小中一貫教育合同研修会・生徒指導部会分科会の開催
- ・統一したきまり（教師用指導手引き）の作成
- ・「いきいきと主体的に活動する川里の子どもたち10の約束」（リーフレット）の作成
- ・学校・家庭・地域連絡会の開催

#### (成果)

○平成24年から27年に実施したアンケートにおける、中学校入学前の体験で、入学前の不安などが少なくなったかという設問に対する回答が改善。

⇒「不安が少なくなり安心して入学できた」の割合が31%から49%に上昇

○不登校生徒の出現率の減少。令和3年度2.9%、市内の平均5.7%。

○学力・学習調査では、全国平均と比較しての伸び率のうち、国語と数学において大きな伸びが見られる。

## 質問5 すでに成果があるのなら今のままでも良いのは？

施設分離型の小中一貫校では、学校間の距離が離れているため、取組を実施する際の連絡や移動の時間の確保、教職員の負担など、難しい面もあります。施設一体型にすることで、それらの課題が解消され、より大きな成果が見込まれると考えられています。

実際に、文部科学省が小中一貫教育を実施している全国の国公立小・中学校1,130校等を対象として実施した、「小中一貫教育等についての実態調査」の結果を見ても、「学力面」「生徒指導面」「児童生徒の情意面」「教職員の意識面」で、「施設隣接型」「施設分離型」に比べて「施設一体型」がアンケート結果で高い数値を示しています。

## 質問6 小中一貫教育校のメリットは？

### (1) 小中ギャップの緩和・解消

小学校と中学校の段差を緩和することで、小学校教育から中学校教育への円滑な移行を促すことが可能となり、中一の壁や小中ギャップと呼ばれる問題が緩和・解消する効果が期待されます。

### (2) 異学年交流による精神的な発達

1年生から9年生までの児童生徒が学校行事などを通じて異学年交流を行うことによって、上級生から下級生に対する思いやりの心、上級生・下級生の規範意識、下級生から上級生に対する憧れの気持ちなど、精神的な発達や社会性の育成等の効果が期待されます。

### (3) 継続的な指導

小学校と中学校が一つの学校となり、9年間継続して児童生徒に対する指導が行われるため、教員間で児童生徒の情報が共有しやすくなり、児童生徒の個性に応じたきめ細やかで丁寧な生徒指導が可能となります。

#### (4) 設置者の判断による教育課程特例

##### ①指導内容の入替え・移行

9年間を一つの「学び場」として考えるため、子どもたちの実態や理解の程度を考えて、指導する時期(学年)や指導する時数を柔軟に考えることができます。

(具体例)

- ・9年間を通じた基礎学力保障の取組を強化する一環として、思考力の根幹をなす語彙力・語彙表現を拡充する観点から9年間の系統性を踏まえつつ、漢字を習得する時期を早め、習得する漢字数を増やす。
- ・英語教育の早期導入と併せ、小学校低学年からアルファベットや単語指導を行う。
- ・小学校1年生からの基礎学力保障や学習内容の定着を重視した取組を行うことと併せて、中学校数学科の負の数や文字を用いた式の指導を小学校高学年に移行する。

##### ②カリキュラムの開発

義務教育学校の特例として、9年間を見通した研究開発制度・教育課程特例制度の下で学校指導によらないカリキュラム開発も認められています。

(具体例)

- ・地域学習に関する取組（ふるさと学習）
- ・言語能力に焦点を当てた取組
- ・キャリア教育に関する取組
- ・情報活用能力の育成に関する取組
- ・環境教育に関する取組
- ・姉妹都市との交流を柱に据えた異文化理解に関する取組

#### (5) 柔軟な学年段階の区切り

・指導の一貫性の教科の一環として、子どもの発達の早期化への対応や中学校段階への移行に際して、子どもが体験する段差の緩和を図る観点から「4-3-2」や「5-4」など、学年段階の区切りを柔軟に設定することが可能となります。

・小学校段階と中学校段階の間に円滑な移行のための期間を意図的に設けることにより、学習指導面・生徒指導面でのいわゆる「中1ギャップ」又は「小中ギャップ」の緩和に資することができます。

・区切りごとに、育成を目指す資質・能力、指導上の重点、具体的な目標等を明確に定めておくことにより、学年完結型となりがちな教職員の意識改革を促し、上学年への進級や中学校卒業時点をイメージした取組を強化することができます。

## (6) 教員の指導体制について

### ①教科担任制の導入形態

- ・ 特定教科における専科指導
- ・ 学級担任間の授業交換
- ・ 専科担当教員と学級担任とのTT（チームティーチング）

### ②教科担任制のメリット

（学習指導の改善に関するもの）

- ・ 指導の専門性に根ざした質の高い授業を行うことにより、学力や学習意欲の向上が期待できます。
- ・ 同じ授業を複数の学級で担当することから、授業の反省点を即座に次の授業に生かすなど、指導方法の工夫改善を行うことが容易になります。
- ・ 限られた教科に集中できるため、教材研究や授業準備に多くの時間をかけられたり、ガイダンス機能を充実させたりするなどの様々な工夫が可能となります。
- ・ 学年を超えて同一教科を担当する場合は、教科の系統性に対する理解を一層深め、指導と評価の改善につなげることができます。
- ・ 配当時間数の同じ教科を隣の学級の教員と交換授業で持ち合い、複数学級を指導することが恒久化することにより、「自分の学級」から「自分の学年集団」「自分の学校」という意識の醸成につなげることができます。

（生徒指導の改善に関するもの）

- ・ 学級内の生徒指導上の課題を学級担任一人で抱え込むケースが減少することにより、問題行動を早期に発見し、複数教員の連携により迅速に対応する体制を整えることができます。
- ・ 多くの教職員が指導に関わることとなるため、いわゆる学級王国の弊害を減らすことができます。また、多くの教職員の目で見えた情報を次年度の学級編成に生かすことができます。
- ・ 担任以外の教員に接する機会が増えることにより、子どもたちの間に良い意味での緊張感を醸成することができます。
- ・ 興味・関心が多様化する思春期前期において、多様な指導に関わることにより、子どもたちの良さを多面的に評価したり、資質や能力を伸ばしたりすることができます。
- ・ 「好きな先生」や「嫌いな先生」といった感情が見られる場合において、良い関係性を築いた教員が主となって、生徒指導上の課題がある児童に指導するといった工夫も可能となります。
- ・ 学級担任が教科担任の指導に参画したり観察したりする機会を頻繁に持つことにより、担任する児童に関する新たな側面を知ることができ、児童理解を深めることができます。

## 質問7 施設一体型小中一貫校及び義務教育学校の課題は？

9年一貫した環境による人間関係の固定化、小学校高学年におけるリーダー性の育成などが教育指導上の課題として挙げられます。

(課題への対応)

例えば人間関係の固定化に対しては、異学年交流スペースを充実させて交流を大幅に増やすこと、小学校高学年におけるリーダー性育成に対しては、校舎やフロアの区分による成長段階の演出効果により、児童生徒が自らの成長を実感できる工夫を行うこと等が必要と考えます。

また、体格差の大きい児童生徒が同じ施設を利用することから、運動場の分離、学校用家具の強度や寸法への配慮など安全性を確保することも重要となります。

これらの課題も含めて、今後検討していかなければならない事項については、先進自治体において既に検討及び対応がされてきている部分もあるため、参考にしながら在り方を検討していきます。

## 質問8 小中一貫校と義務教育学校のどちらを検討しているのか？

現時点では、義務教育学校を検討しています。

義務教育学校を提案している大きな理由は「一つの学校組織であること」です。

小中一貫校では、小学校と中学校は別の学校となるので、それぞれに教職員組織があり、別々の教育目標の設定や教育課程の編成が行われます。

一方で、義務教育学校は一つの組織であるため、1名の校長先生のリーダーシップのもと、9年間を見通した教育目標を掲げ、教職員は小学校・中学校の分け隔てなく児童生徒の指導にあたります。

組織が一つであるということは、まず学校運営面での利点があります。文部科学省は、小中一貫教育が求められる背景として、「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引」の中で「教育内容や学習活動の量的・質的充実に対応して、小学校と中学校の教員が連携して、例えば、小学校高学年での専門的な指導の充実や、児童生徒のつまづいた学習内容についての長期的な視点に立ったきめ細やかな指導などの学習指導の工夫に取り組むことの重要性が増してきた」ことを挙げています。

例えば、小学校高学年の「外国語」授業を、中学校の英語科免許を持つ教員が授業を行う場合、小中一貫型学校では教員が、別の学校を兼務するという「兼務申請」が毎年必ず必要となるが、義務教育学校においては申請の必要はありません。

これは手続き上の問題だけではなく、教員の意識改革にもつながります。例を挙げれば、「中学校の教員なのに、小学校にも行かなければならない」ではなく、「自分の学校の児童生徒を指導するのは当たり前」という考え方に変わるということです。

文部科学省が指摘しているように、小学校と中学校には緊密な連携が求められますが、そのための手立ての一つが小中一貫教育であり、それをさらに充実したものにしていくのが「義務教育学校」という学校制度と考えています。

#### 質問9 小中一貫教育校又は義務教育学校になることで、教職員の数は減らされないか？

現在と同じように、埼玉県市町村立小・中学校教職員配当基準表に基づいて教職員が配置されることから、小中一貫校でも義務教育学校でも職員の配置人数に違いはありません。

#### 質問10 義務教育学校では6年生の卒業式や中学1年生（7年生）の入学式はどうなるのか？

義務教育学校では、9年生（中学3年生相当）を対象に卒業式を他の中学校と同日に執り行います。6年生は、「前期課程の修了」という位置づけになるため、卒業式は行いません。

一方で、6年間の教育課程の修了という節目を祝うために、9年生の卒業式と同じ日の同じ会場で、前期課程（小学校に相当）の「修了証書授与式」を行っている学校が多数あります。

また、義務教育学校1年生の入学式は、他の小学校と同日に開催、中学1年生の入学式に代わり、7年生「進級式」も入学式と同日に行われています。子どもたちの達成感や充実感を大切にするため、こうした取組を工夫することは重要であると考えています。

#### 質問11 義務教育学校後期課程（中学校相当）の部活動はどのようになるのか？

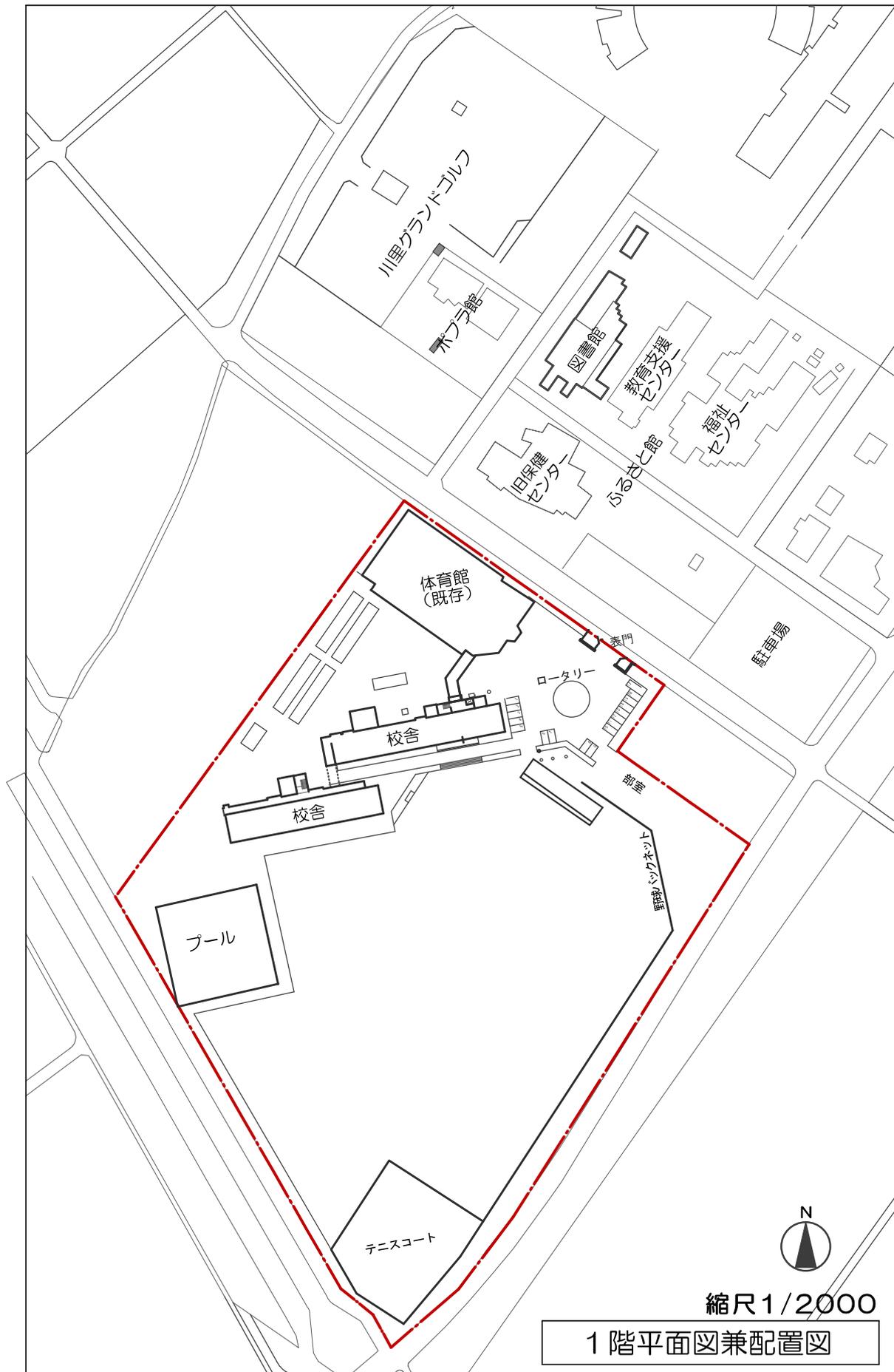
現在の部活動は継続して活動を行います。各種大会等にも、これまでと同じように参加することはできます。

部活動のあり方、新たな部活動の設置、前期課程（小学生）の部活動への参加等については、今後検討していくものとなります。

## 小中一貫校と義務教育学校の比較

		小中一貫校	義務教育学校
形態		○施設一体型 ○施設隣接型 ○施設分離型	○施設一体型 ○施設隣接型 ○施設分離型
名称		従来の小学校、中学校は廃止せず、鴻巣市立学校の管理運営に関する規則で小中一貫校の名称を規程	従来の小学校、中学校を廃止して設置する。 ※「義務教育学校」は法律上の学校の種類を表す名称。個別の学校名に「義務教育学校」を付ける必要はない。
教育課程		6-3制 ※カリキュラム編成上の工夫として4-3-2の学びの区分を設定	前期課程6年・後期課程3年 ※カリキュラム編成上の工夫として4-3-2、5-4などの区切り設定も可。
修業年限		小学校6年・中学校3年	9年
第6学年終了時	取扱	小学校の全課程修了	前期課程の修了
	取証儀式	卒業証書 卒業式	修了証書 修了式
第7学年開始時	取扱	入学	進学
	取証儀式	入学式	始業式
教員免許		小学校：小学校の教員免許状 中学校：中学校の教員免許状	小学校・中学校の教員免許状を両方有する者 ※当分の間は小学校の免許状で前期課程、中学校の免許状で後期課程の教諭になることができる。
指導上の工夫		小学校・中学校の兼務発令を行うことで、一貫校の教員として全児童・生徒に生活指導などを行っている。	どの教員も義務教育学校の全児童・生徒に生活指導などを行うことができる（兼務発令は不要）。

【現況】（既存校舎、周辺状況）



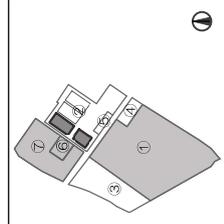
【1案】敷地拡張なし・南側グラウンドパターン



1階平面図兼配置図

計画概要

1	敷地購入	不要	
2	対象敷地	①川里中学校敷地 ⑥ボプラ館敷地 ⑦グラウンドゴルフ敷地 ※既存図書館(改修) ※既存保健センター(改修)	
3	校舎	2階建て	
4	体育館(新設)	2階に設置(3階吹き抜け)	
5	プール	新設(地上)	
6	第二グラウンド	あり	
7	テニスコート	校舎敷地に新設	
8	児童クラブ	改修・新設・複合化を検討	
9	図書館	既存図書館を改修	
10	駐車場の増設	校舎敷地に新設	
11	仮設校舎	あり	
12	残工事の発生	あり(既存体育館の改修、グラウンド整備、仮設校舎解体)	



計画の特徴

- 敷地購入を行わない計画
- 校舎敷地に第二グラウンド以外のすべての施設を配置した
- 既存校舎と同じ位置に校舎を計画するため、仮設校舎が必要になる
- 敷地内のグラウンドが狭いため、第二グラウンドは必須となる  
グラウンドゴルフ場を第二グラウンドにする案にしたが、ふるさと館  
を第二グラウンドとする計画も考えられる
- 4階建て校舎を配置してもグラウンドは同じく5mの狭さとなる

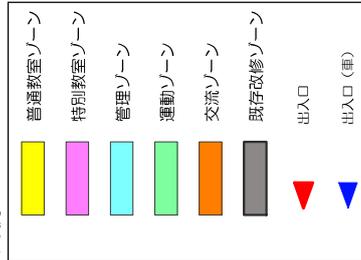
課題点

- 配置・外構
- 敷地に対して施設の密度が高いので、余裕のある配置構成が難しい
  - 駐車場の設置位置が悪い
  - 中学生側の歩行者と自転車のアプローチ手動線が交錯する
  - プールの位置が悪い
  - 中学校敷地外にグラウンド整備が必要
  - 仮設校舎が必要になるため建設コストが増える
  - 小学校、中学校、ふるさと館、グラウンドゴルフ、児童クラブ  
に対して、駐車場の不足が想定される

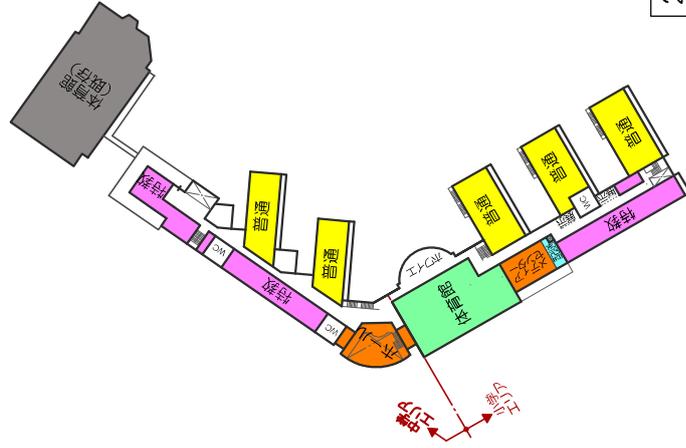
工事工程

ステップ1	仮設校舎工事 (6ヵ月程度)	リース期間 (26ヵ月程度)	仮設校舎解体 (1ヵ月程度)
ステップ2	第二グラウンド工事 (6~8ヵ月程度)		
ステップ3	既存図書館改修工事 (6ヵ月程度)		
ステップ4	新設図書室 (20ヵ月程度)		
ステップ5	外構工事 (3~5ヵ月程度)		

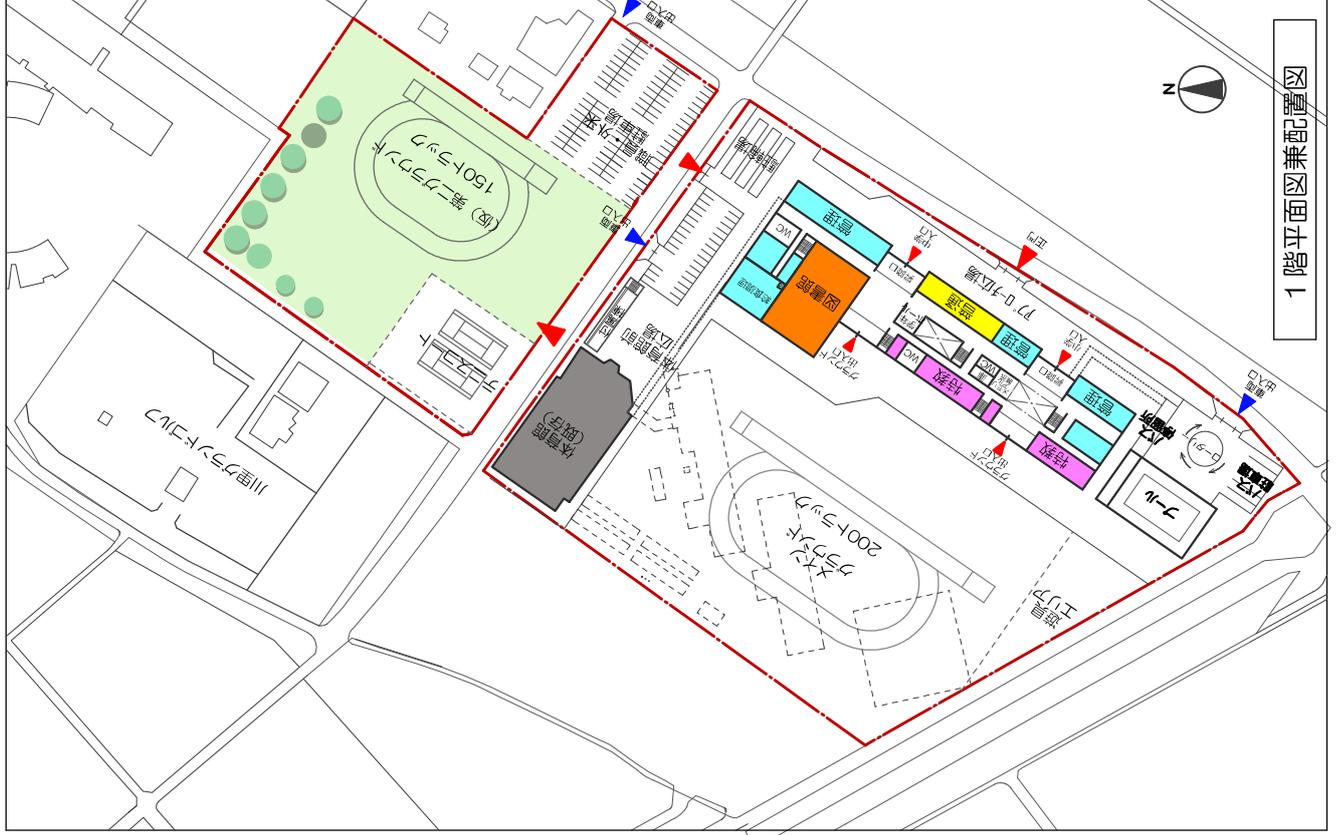
凡例



2階平面図



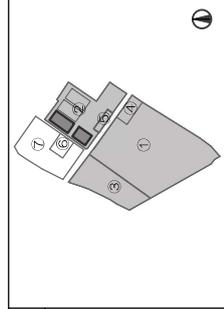
【2案】（一部敷地拡張・北側グラウンドパターン）



1階平面図兼配置図

計画概要

1	敷地購入	必要
2	対象敷地	①川里中学校敷地 ②ふるさと館敷地 ④東側隣地 ⑤ふるさと館隣地 ⑥ホブラ館敷地 ※既存ホブラ館（改修）
3	校舎	3階建て
4	体育館（新設）	2階に設置（3階吹き抜け）
5	プール	新設（地上）
6	第二グラウンド	なし
7	テニスコート	ふるさと館敷地に新設
8	児童クラブ	改修・新設・複合化を検討
9	図書館	小中学校の図書館と複合化
10	駐車場の増設	校舎敷地に新設
11	仮設校舎	なし
12	残工事の発生	あり（既存校舎の解体、既存体育館の改修、グラウンド整備）



計画の特徴

- ①グラウンドに新校舎を計画することで、工事期間も中学生は既存校舎を使用することが可能になる
- ②限られた範囲に建てることになるため、3階建て（体育館を2階）の計画とした
- ③校舎を南東側に寄せるため、北西側にグラウンドを配置する計画となる
- ④体育館を既存改修して再利用
- ⑤図書館は、小中学校の図書室と複合化させる計画とする

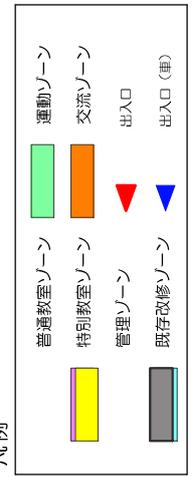
課題点

- 校舎
- ①普通教室が道路及び隣地に面する
  - ②昇降口とグラウンドが反対になるため、グラウンド側にも出入口を設ける必要がある
  - ③普通教室が南東向きになる
  - ④特別教室が北西向きになる
  - ⑤中学生エリアと小学生エリアが混在する
- 配置・外構
- ①土地の拡張が必要になる
  - ②テニスコート等の一部の施設が敷地外になる
  - ③校舎建設前に第二グラウンド整備が必要になる
  - ④メイングラウンドが校舎の日影になる
  - ⑤駐車場が不足する
  - ⑥季節風の影響を受けやすくなる
  - ⑦小中学生のアプローチ動線が交錯する
  - ⑧改修する既存体育館までの距離が遠くなる

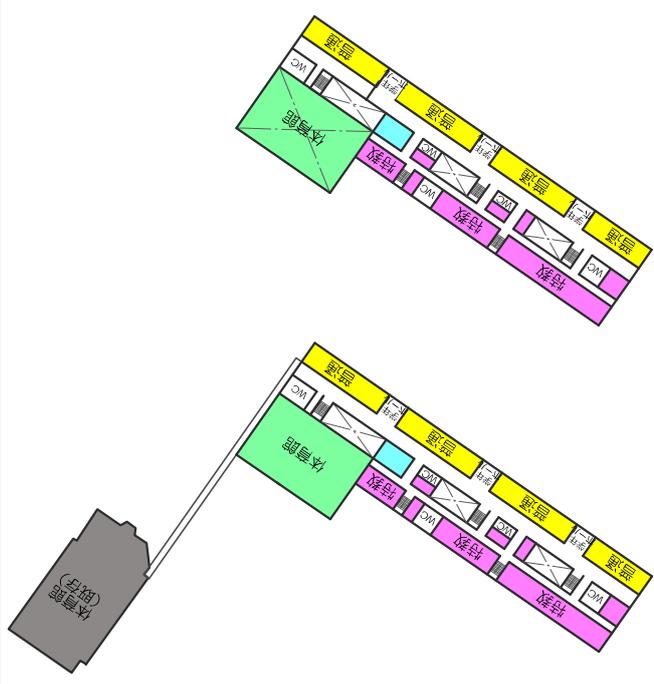
工事工程

スタップ1	第二グラウンド工事（6～8ヵ月程度）	仮設校舎（9～11ヵ月程度）
スタップ2	新築工事（22ヵ月程度）	
スタップ3	既存校舎解体工事（6ヵ月程度）	
スタップ4	外構工事（3～5ヵ月程度）	

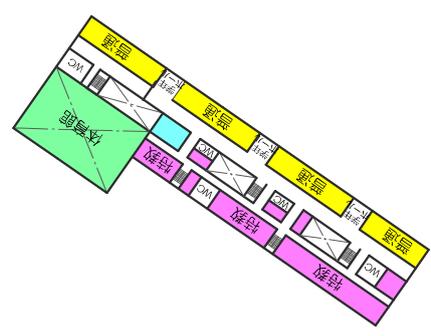
凡例



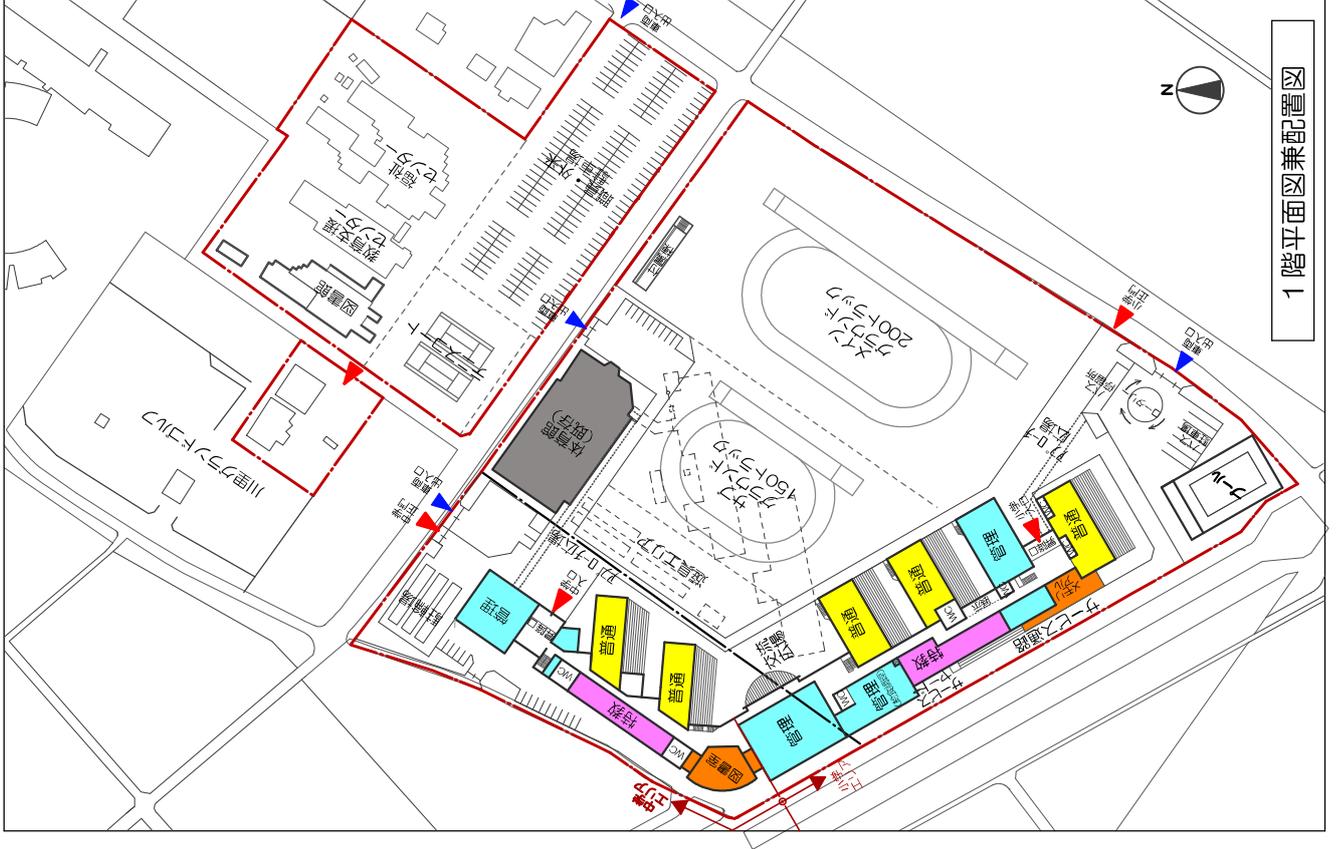
2階平面図



3階平面図



【3案】（北西側敷地拡張・2階建て案）



1階平面図兼配置図

計画概要

1	敷地購入	必要	
2	対象敷地	①川里中学校敷地 ②ふるさと館敷地 ③北西隣地 ④東側隣地 ⑤ふるさと館隣地 ⑥ホブラ館敷地 ※既存図書館(改修) ※既存ホブラ館(改修)	
3	校舎	2階建て	
4	体育館(新設)	2階に設置(3階吹き抜け)	
5	プール	新設(地上)	
6	第二グラウンド	なし	
7	テニスコート	ふるさと館敷地に新設	
8	児童クラブ	改修・新設・複合化を検討	
9	図書館	既存図書館を改修	
10	駐車場の増設	ふるさと館駐車場を増設して職員用駐車場として利用	
11	仮設校舎	なし	
12	残工事の発生	あり(既存校舎の解体、既存体育館の改修、グラウンド整備)	

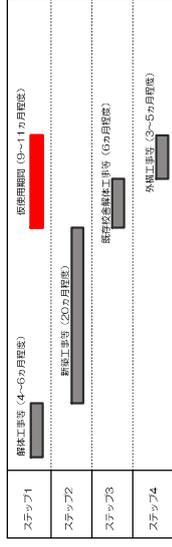
計画の特徴

- ① 既存校舎をよけた位置に新校舎を計画することで、工事期間も中学生は既存校舎を使用することが可能になる
- ② 北東側に中学生アプローチ、南東側に小学生アプローチを計画
- ③ 小学エリアと中学エリアを明確に隣棟間隔に区分した
- ④ 普通教室を南に向けて共に適切な隣棟間隔をあげ、教室の採光換気を確保できるように配慮した
- ⑤ 小学生のバス通学や中学生の自転車通学を歩行者動線と区分し、歩車分離に配慮した
- ⑥ 図書館は、ふるさと館の既存図書館を改修して再利用

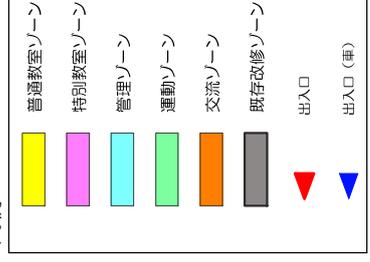
課題点

- 配置・外構
- ① 土地の幅幅が必要になる
  - ② テニスコート等の一部の施設が敷地外になる
  - ③ 駐車場が不足する
  - ④ 既存校舎解体工事中は、グラウンドへのアプローチに配慮が必要になる
  - ⑤ 新校舎と旧校舎が近接している範囲は、工事中の目隠し養生、騒音対策等の配慮が必要になる

工事工程

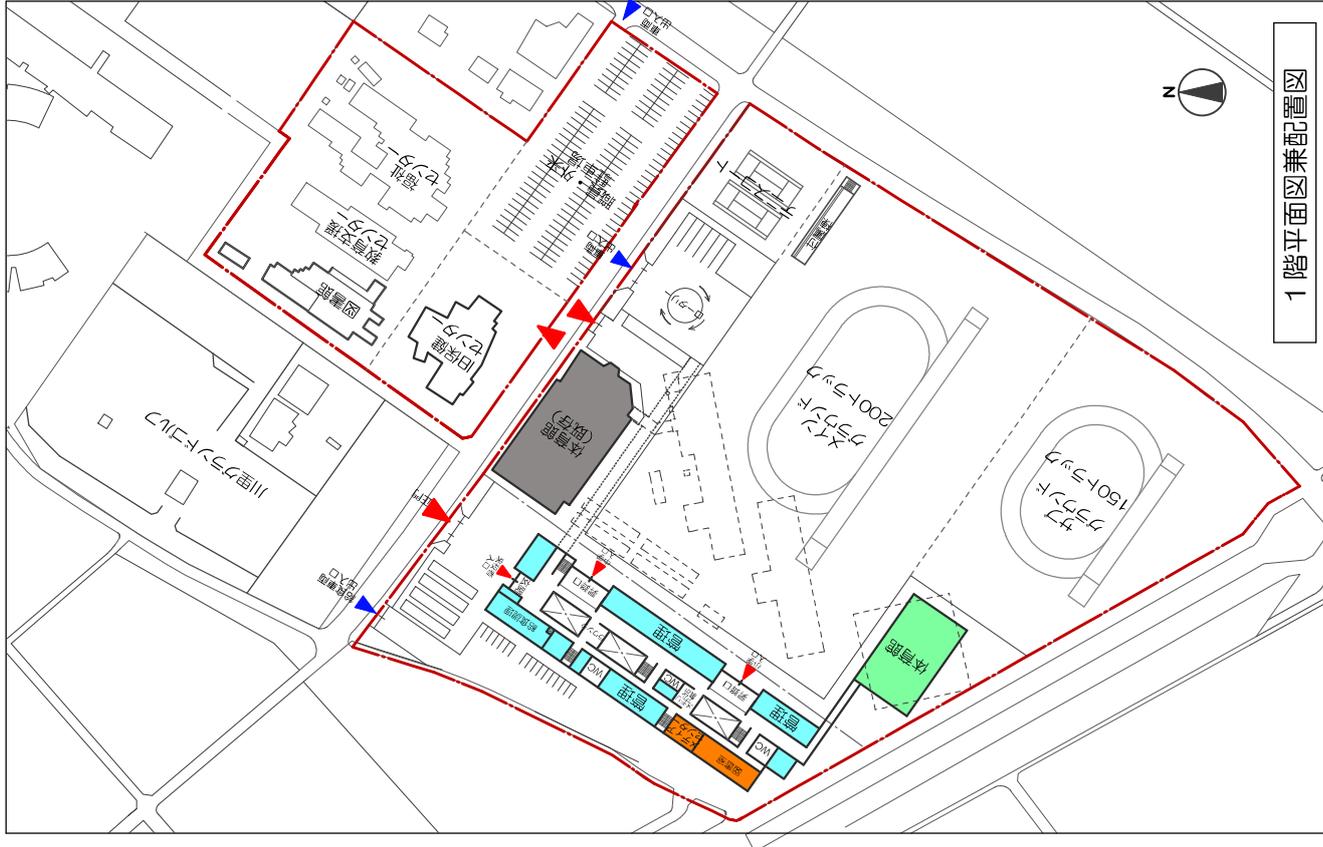


凡例



2階平面図

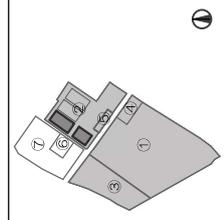
【4案】北西側敷地拡張・4階建て案



1階平面図兼配置図

計画概要

1	敷地購入	必要
2	対象敷地	①川里中学校敷地 ②ふるさと館敷地 ③北西隣地 ④東側隣地 ⑤ふるさと館隣地 ※既存図書館(改修) ※既存保健センター(改修)
3	校舎	4階建て
4	体育館(新設)	1階に設置(2階吹き抜け)
5	プール	体育館屋上に設置
6	第二グラウンド	なし
7	テニスコート	校舎敷地に新設
8	児童クラブ	改修・新設・複合化を検討
9	図書館	既存図書館を改修
10	駐車場の増設	ふるさと館駐車場を増設して職員用駐車場として利用
11	仮設校舎	なし
12	残工事の発生	あり(既存校舎の解体、既存体育館の改修、グラウンド整備)



問題点

- 校舎
- ①普通教室が南東向きになる
  - ②特別教室が北西向きになる
  - ③中学生エリアと小学生エリアが混在する
  - ④日影規制の影響を受ける
  - ⑤上階への動線が長くなる
- 配置・外構
- ①バスロタリーから昇降口へのアプローチの距離が長い
  - ②小中学生のアプローチ動線が交錯する
  - ③昇降口を小学生と中学生で分けた攝合、片方がかなり奥側になる
  - ④工期が長くなる
  - ⑤一部敷地の拡張が必要になる

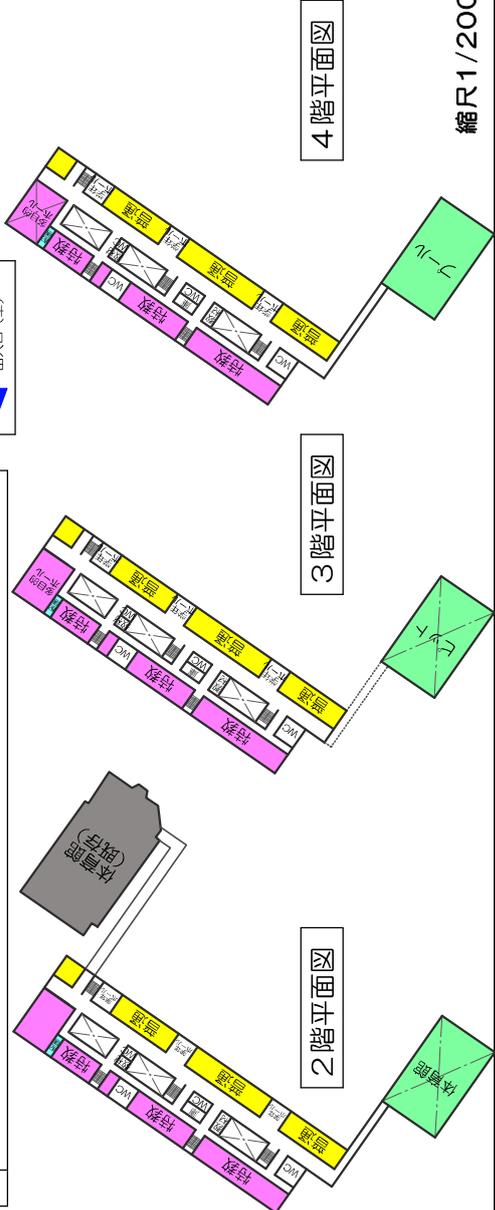
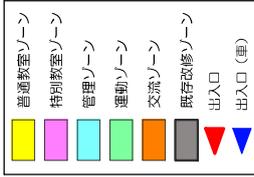
計画の特徴

- ①北側の拡張敷地に新校舎を計画することで、工事期間も中学生は既存校舎を使用することが可能になる
- ②4階建てすることで、グラウンドと外構を広く活用できるように考慮した計画
- ③プールを屋上に設置した体育館棟を計画
- ④既存プールのインフラ経路を再利用できるように既存プールの位置に配置した
- ⑤グラウンドを2面配置して敷地内で完結する計画とした
- ⑥図書館は、ふるさと館の既存図書館を改修して再利用

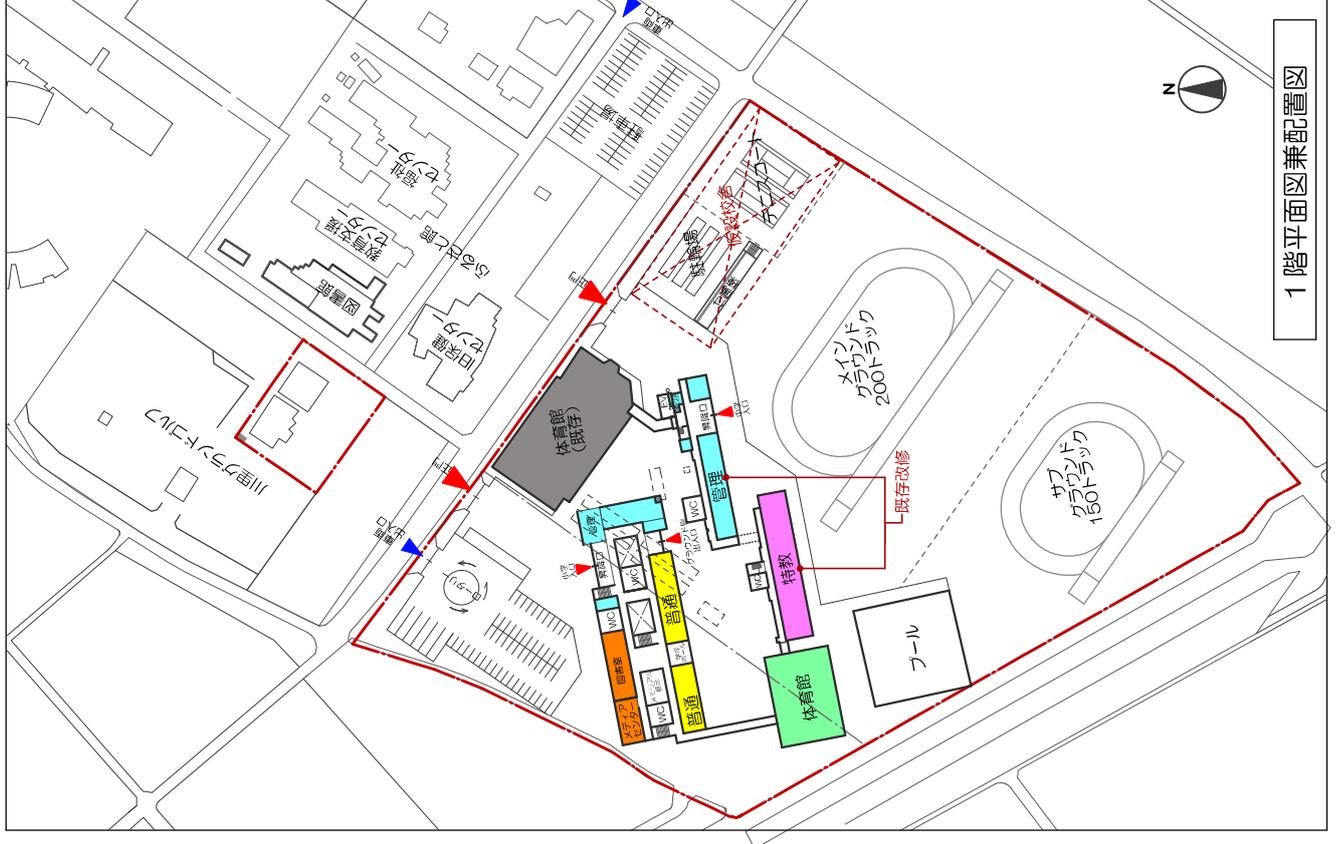
工事工程

ステップ1	解体工事等(4~6ヶ月程度)	仮設期間(9~11ヶ月程度)
ステップ2	新設工事等(24ヶ月程度)	
ステップ3		既存校舎解体工事等(6ヶ月程度)
ステップ4		外構工事等(3~5ヶ月程度)

凡例



【5案】（北西側 敷地拡張・改修+増築パターン）



1階平面図兼配置図

計画概要

1	敷地購入	必要	①
2	対象敷地	①川里中学校敷地 ③北西隣地 ④東側隣地 ⑥ホブラ館敷地 (改修) ※既存ホブラ館 (改修) ※既存図書館 (改修)	
3	校舎	3階建て (一部既存校舎)	
4	体育館 (新設)	1階に設置 (2階吹き抜け)	
5	プール	既存プールを改修	
6	第二グラウンド	なし	
7	テニスコート	校舎敷地に新設	
8	児童クラブ	改修・新設・複合化を検討	
9	図書館	既存図書館を改修	
10	駐車場の増設	校舎敷地に新設	
11	仮設校舎	あり	
12	残工事の発生	あり (既存校舎の解体、既存体育館の改修、グラウンド整備)	

問題点

- 校舎
- ① 既存校舎の日影の影響を受けるエリアがある
  - ② 渡り廊下の上下足の問題の解決が困難
  - ③ 新校舎からの既存体育館への経路が複雑
  - ④ 既存校舎側にEV棟の増築が必要になる
- 配置・外構
- ① グラウンドの形状が成形ではない
  - ② 新校舎からグラウンドへのアプローチが悪い
  - ③ 校舎と既存体育館の間などの、成形でないテラススペースが多い
  - ④ 一部敷地の拡張が必要になる
  - ⑤ 小学校、中学校、ふるさと館、グラウンドゴルフ、児童クラブに對して、駐車場の不足が想定される
  - ⑥ 仮設校舎が必要になるため建設コストが増える

計画の特徴

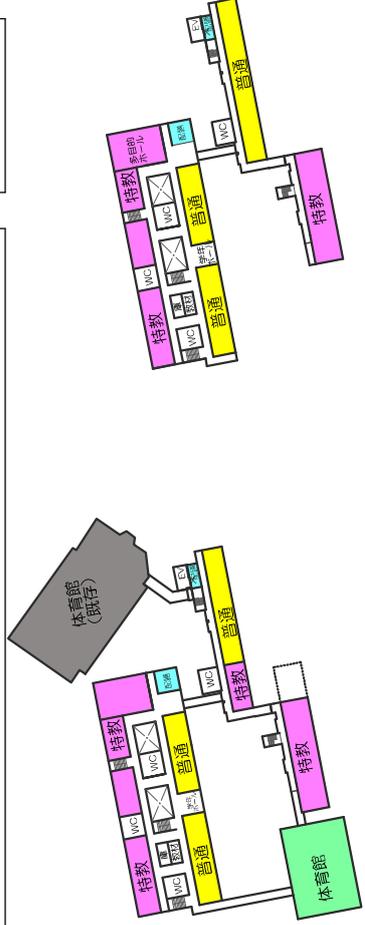
- ① 増築と既存校舎改修を併用してコストを抑えた計画
- ② 既存校舎は階段舗上等の制約があるので、中学生用の校舎として再利用
- ③ 小学生用の校舎と体育館を増築
- ④ 各棟は渡り廊下で接続する
- ⑤ プールは、既存プールを小学生用に改修して再利用
- ⑥ グラウンドを2面配置して敷地内で完結する計画とした
- ⑦ 図書館は、ふるさと館の既存図書館を改修して再利用

工事工程

ステップ1	解体工事等 (3~4ヶ月程度)
ステップ2	仮設校舎工事等 (6ヶ月程度)、リーフ2期間 (20ヶ月程度)、配設校舎解体 (1ヶ月程度)
ステップ3	新築工事等 (20ヶ月程度)
ステップ4	外構工事等 (3~5ヶ月程度)

凡例

- 普通教室ゾーン
- 特別教室ゾーン
- 管理ゾーン
- 運動ゾーン
- 交流ゾーン
- 既存改修ゾーン
- 出入口
- 出入口 (車)



2階平面図

3階平面図

③結果

---

# 『案1、2』

## 敷地

②案 未買収地2ヶ所の問題は？

土地が狭い  
4校合同になるなら  
増やした方がよい

①案 2階建てでは  
敷地を要する

## 配置の問題

②案 校舎南側に  
より校庭水はけ悪い

②案 北側グランドは  
風の配慮的に  
良くない

②案 北側グランドは  
よくない

正門が2ヶ所で  
先生の配置大変？

第二グランドは  
主に誰が使う？

## 敷地利用 (規模)

## 工事関連

既存校舎が  
工事中も使える

①案 仮設校舎は  
学校運営が難しい

①案 仮設校舎に  
2年は長い

## 安全面

道路を渡る  
橋があれば安全

道路を渡って  
移動は危ない

動線が交差するのは  
よくない  
小中学生と歩行者  
自転車のアプローチは  
別々がいい

①案 第二グランドへ  
の移動が危険

南側正門は危ない

①②案 道路を  
またぐのは危険

①案 小中学生エリア分  
かれているのは安全

## 平面プラン (建築計画)

## 工事中の利用

1年間体育祭  
部活動が出来ない  
校庭使えない為

①案 仮設校舎を  
建てるとグランドが  
利用しづらい

②案 校舎が南は  
校庭が暗くなる

小中学校が  
1つの建物で良いか

②案 3階建ては  
スペース狭い

②案 体育館への  
通路が長い

①案 野通川沿いは  
水害リスクが大きい

## 図書館

②案 地域図書館エリア  
(学校管理、地域)  
の区分けが難しい

図書館はそのまま  
市民用がいい

②案 図書館を学校と  
共同使用は一般の人  
が利用しづらい  
又セキュリティの問題も  
ある

②案 図書館を  
壊さないで欲しい

②案 防犯利の為  
図書館は学校単体で  
の設置がよい

②案 学校内に図書館  
を入れるのは  
安全管理上良くない

## 複合施設 機能

①案 第二グランドが  
遠い

## 残す

①案 ふるさと館  
残るのは良い

①案 利用者の意見  
としてグランドゴルフ場  
は残す

グランドゴルフ場ふるさと  
館は残すべきだ  
(図書館・福祉センター等)

現在も利用している  
為旧保健センターはその  
まま残す

既存施設を  
残してほしい

②案 支援センターは  
残すべき

## プール

小学校の統合には  
反対です

小中一貫への  
川里と他との差を  
数値根拠が欲しい

小学校は別のまま  
統合しないで欲しい

②案 しだれ桜を  
残して欲しい

プール鴻巣  
やらないのでは？

プールいらない？

## その他

今小学校では自校で  
給食を作っているが  
どうなるのか

運動会はどのように  
開くのか

## コスト

建設コスト高くなる

敷地購入できる予算  
があれば広くしたい

## Aグループ

『案3、4』

**正門**

- 小中学校の入口が別々なのは良いこと
- ③案 小・中の正門が別々なのは事故リスクが減るので良い

**安全面**

- 道路渡らないから安全
- バス車両入口と小学正門近くで危険

**敷地利用 (規模)**

- 駐輪場・駐車場 少ない
- ③④案 敷地拡大は有効 (1つにまとまる)
- 小・中階段一緒の為ゾーン混在する
- ③案 校舎内が広々として過ごしやすい
- ③案 野通川沿いは水害リスクが大きい

**平面プラン (建築計画)**

- ③案 小学校正門南側は危険
- ④案 特別教室が北側にて暗い
- ③案 ゆとりのある校舎配置
- ④案 プール体育館上はNG
- ④体育館2つは便利
- ④案 学年、小中の切り方が難しい
- ④案 サ「グラウンド」は低学年なので校舎近くに配置
- ④案 小学校と中学校のゾーンがしっかり分けられない

敷地拡張絶対！やるなら

南側グラウンド 北側校舎

3案が一番良いが校舎配置等課題あり

**4階建て**

- ④案 4階建ては震災等考えると心配
- ④案 4階建て移動大変
- ④案 4階の活用 小中の区割りをどうするか
- ④案 4階建て1フロア狭い
- ④案 4階建てはエレベーターは？
- ④案 4階建てではなく3階建て(案2)は出来ないか？

**2階建て**

- ③案 2階建ては敷地が多く必要
- ③案 2階におさまり小中分かれているので良い
- ④案 1,2年生でも2階教室で良いのか？

ふるさと館を残したい！

**既存施設について**

**複合施設機能**

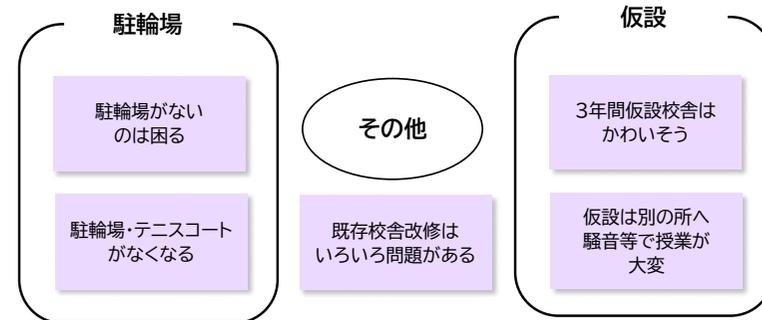
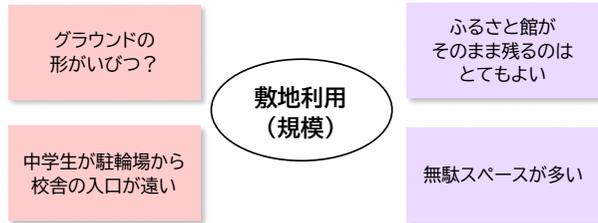
- ③案 グラウンドゴルフ場 図書館残せて良い
- ポプラ館の利用は可能か？
- ③④案 ふるさと館残すのはGood
- ③④案 図書館の管理利用が不安。市民と生徒が同時利用？
- ③案 ポプラ館はどこへ？

土地買えるのか？

**その他**

- ③案 テニスコートは一般の人のため？

『案5』



Aグループ

『案1、2』

土地

①案 陽当りの悪い北側「グランド」は地球温暖化対策上有効

①案 「グランド」が狭い

①案 敷地が狭い為拡張すべき

①案 土地が狭いので拡張すべき

敷地利用  
(規模)

①案 市の図書館はそのまま公共の物として残す

①案 「グランド」ゴルフ場が無くなるのは疑問

②案 ふるさと館の施設は残せる物はないか

ふるさと館は出来るなら移転、新築して欲しい  
小中学校と機能融合がのぞましい

ふるさと館を残せる方向

②案 ふるさと館移設費用

②案 ふるさと館を残さないのはよくない

ふるさと館(残)

出入口

①②案 第二「グランド」への間の道に陸橋はつくのか？

①案 小学正門が広い道路に面している

①②案 特別支援学級は1階が良い

①案 小学校正門・出入口坂になっていて見通し悪い

平面プラン  
(建築計画)

児童の移動距離

①案 駐車場とプールが近い

プールは小学児童のみ使用なので小学エリアに近くが良い

①案 校舎からプールまでが遠い

②案 学童が遠い

図書館

②案 学校図書館と公共図書館は機能が違うので別にすべき

学校が地域に開かれる為には校内図書館はいいアイデア  
夜も休みも人があるのはいい

①案 小学校と中学校の図書室は分けた方がいい

複合施設機能

②案 図書館平日・日中利用外部の出入りセキュリティ

②案 図書館と図書室は別にして欲しい

部活

①案 仮設校舎部活動は？

共・広・屈3校「グランド」が残るので「部活用「グランド」」はどこまで必要なのか

移動の危険

①案 道路を隔てた第二グラウンドは危険

①②案 道路を渡る危険はないのか

②案 グラウンド冬の風が強い

①②案 エレベーターはどこに？

教育支援センター

②案 教育支援センターは？

②案 教育支援センターが無くなるのは困る

児童クラブを充実させる事で重要度が増し若い世代へのアピールとなる

その他

②案 小学エリアと中学エリアが分りづらい

①案 仮設校舎工事期間～第二「グランド」完成次第利用出来るのか？

①案 プール小中共用？

②案 正門は“先相返り”の場所で卒業生には嬉しい

財政的負担はしっかり考えるべき少しでも軽減する意味で仮設校舎は？

①②案 バス通学が決定なのか0-1階が出来ている

Bグループ

『案3、4』

敷地

③④案 土地拡張するのは良い

③案 校庭が広すぎるメイン「ラウト」へのアプローチが遠い

③案 駐車場広いのはOK

④案 平面移動が少ないのはOK

敷地利用  
(規模)

小学エリア

④案 小学エリアと中学エリアは  
どう分けるのか

③案 小学エリア・  
中学エリアを区別した  
のは良い

③案 小中で動線を  
分けなくてもいいの  
では

③案 図書室は  
小学エリアと中学エリアに  
1つつ欲しい

平面プラン  
(建築計画)

小学エリア出入口

③案 小学  
出入口の交通  
見通し悪い

③案 小学校  
正門前が危険

③案 教室からの眺  
めが川里らしくない  
のでは？  
田んぼが見えない

エレベーター・防災  
縦動線について

③④案 エレベーターを  
設置した方が良い  
(特に4階建て)

4階建て、3階建てで  
エレベーターがない

③案 体育館が2階に  
あって下の階の音と  
かは心配ないのか

④案 4階建ては良い  
高い視点で地域を見  
る事は意義あると思  
う

④案 ハンディキャップの  
方でも移動しやすい  
ように

④案 災害時の避難  
に時間がかかる

④案 コパの外で良い  
が4階というのはど  
うか？エレベーターは？

④案 4階まで上がる  
の大変  
火災の時や急な時に  
下りるのも大変

4階は地盤的に  
どうなのか

複合施設  
機能

図書館

図書館と図書室を分  
けるのはどうか？  
開かれた図書館を楽  
しみにしています

③④案 学校図書と  
図書館が別になっ  
ているのは良い

④案 児童クラブを  
ポプラ館の跡地にす  
れば学校の機能的に  
はまとまりがよい

「ラウト」を広くする  
のも大事だが屋内の  
プレイスペースも広げる  
必要もあると思う

③案 メタヤコイヤの  
木を残せない？

③案 テニスコートは学校  
の敷地内に入れた方  
がいい

③案 学童が遠い

小学生が小動物、畑  
の野菜作りに触れ合  
える場がどの案にも  
ない

その他

プールはあった方が良  
いが教員負担も考慮  
するとなくとも良い  
かも

③④案 街路樹、  
しだれ桜は無くなる  
のか？

④案 1Fと2Fを  
入れかえすると子供の  
使い勝手が良いです

③案 プールが  
駐車場に近い

『案5』

土地の利用について

中庭の利用法で独自性を出せる

⑤案 土地の余る所が多い気がする  
体育館やプール横とか

敷地利用(規模)

土地について

土地を拡げるのは良いが、教室の日当たりが問題？

既存の基礎は問題なしなのか？

土地の低さについてはどうか？

大雨の時大丈夫？

良いところ

全面改修となれば今の技術ならば新築に近いと思うので中学生にも新鮮さを感じてもらえると思う

仮設校舎が無くなる  
とかなり広く校庭が利用出来る

平面プラン(建築計画)

ちょっと不便

⑤案 中学エリアの入口が駐車場から遠い

⑤案 学童が遠い

⑤案 小学グランドへのアプローチが遠い

複合施設機能

その他

疑問点

小中の連携という面でどこまで一体一貫のイメージがつけられるだろうか

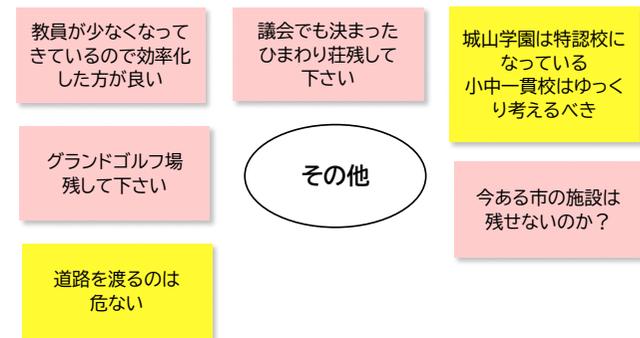
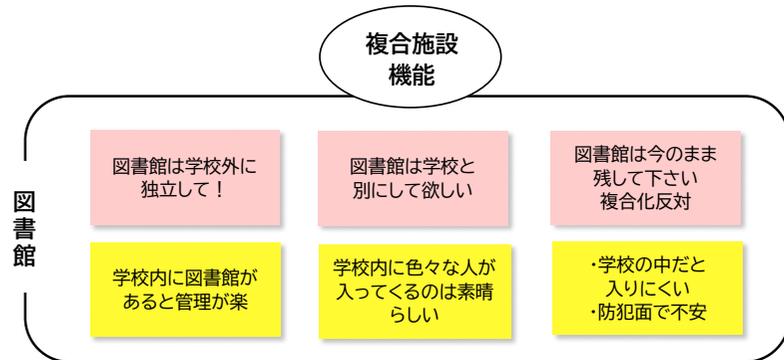
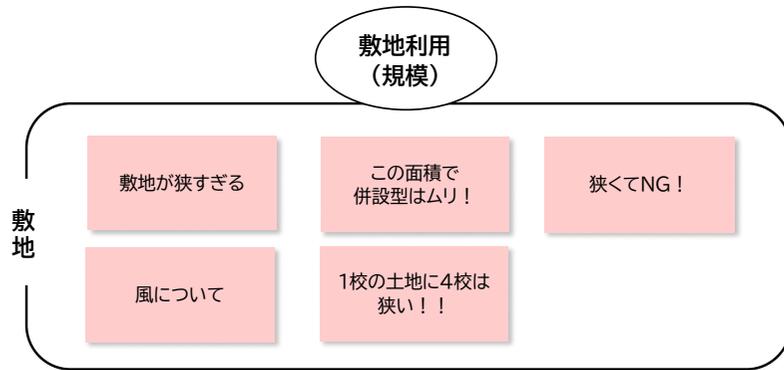
⑤案 遊具エリアはどこにつくるのか

⑤案 他家より特別教室が多いのはなぜか

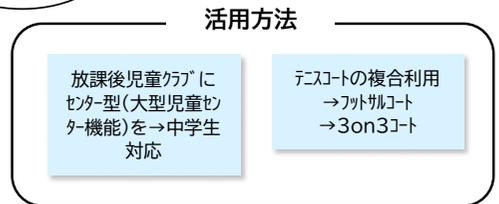
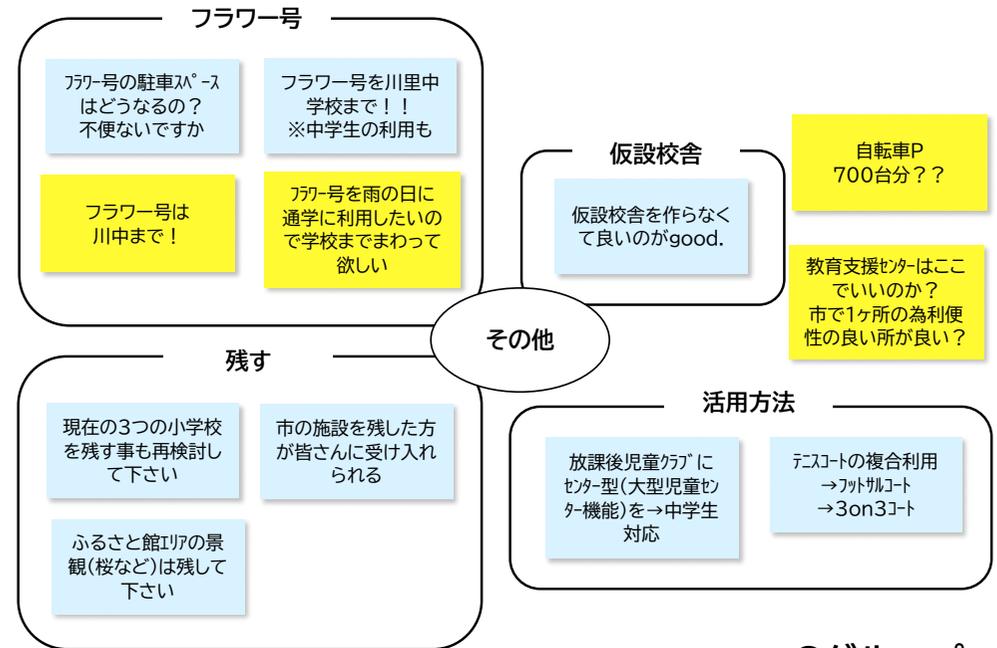
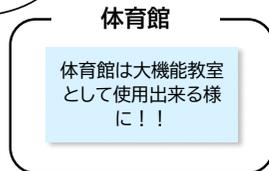
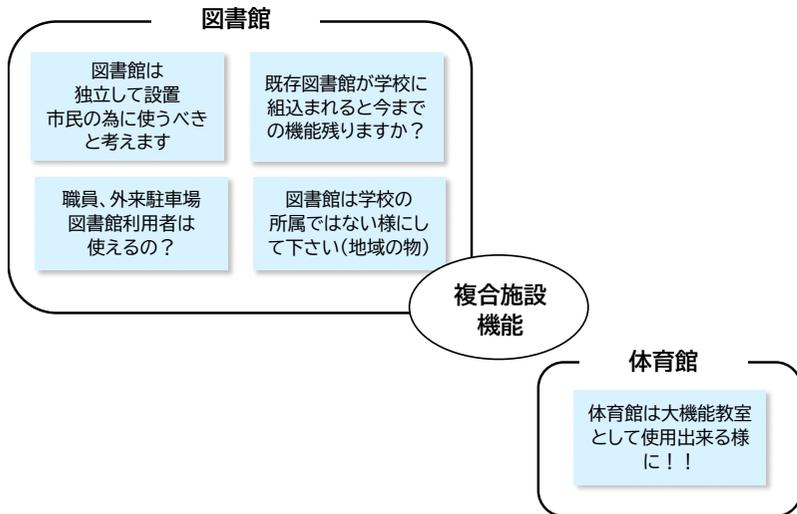
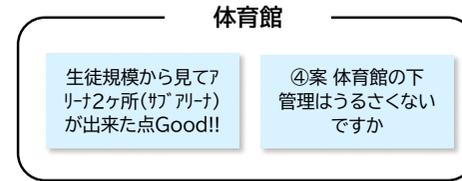
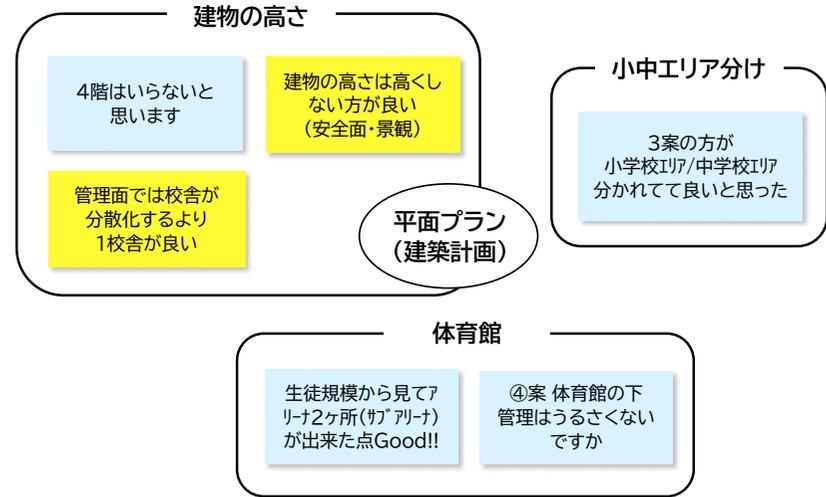
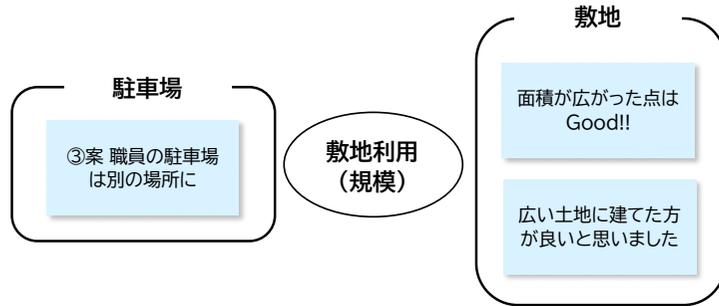
⑤案 給食室はどこになるのか

Bグループ

『案1、2』

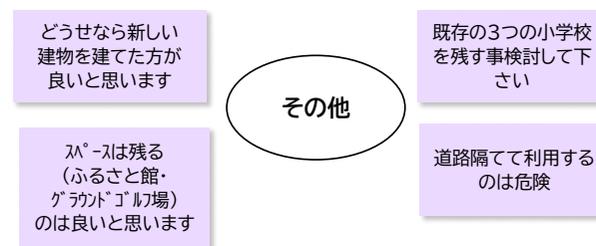
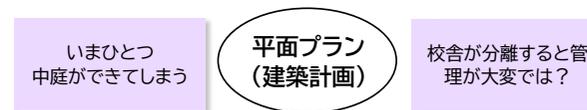


『案3、4』



Cグループ

『案5』



④議事録

---

## 第2回川里地域小中一貫教育校新設に係るワークショップ会議録

開催日時	令和5年 8月 20日（日） 9:00～12:00	
会場	川里支所 2階会議室	
出席者	ワークショップ 参加者	17名
	市職員	鴻巣市教育委員会 教育総務課 ■松本課長 □新井主査 ■堀主任 ■飯島主幹
	設計事務所	株式会社 桂設計 ■岡崎、■中山、■鎌形、□田名部、■一木、■石川

※■出席、□欠席を示す

### 1. 開会

総合ファシリテーター：岡崎

開催時間：3時間程度を予定

配布資料：「川里地域小中一貫教育校新設に係るワークショップ資料」

### 2. 前回のワークショップの報告

前回のワークショップの報告

事業計画についてQ&Aの説明

### 3. 事業計画について 質疑応答

#### 【質疑①】

- ・前回ワークショップで配布された模造紙のタイトルが「小中一貫校に期待すること」となっており、他資料にある「小中一貫教育に期待すること」というテーマと相異がありました。器と中身では全く内容が全く違いますのでどちらが正しいのか確認させてください。また、ヒューマンエラーだとしたら、何がヒューマンエラーで、何が正しいのか確認させてください。

回答：資料作成時に、課題タイトルを複数個所に記載しましたが、その時に言葉尻が間違えて、2種類の言葉が記載されてしまいました。前回ワークショップにおいては、ソフト的なことも、ハード的なことも、どちらの内容のご意見も頂きたいということでお答えさせて頂きました。ですので、記載した名称が2種類になってしまいました。内容の食い違いではなく、小中一貫に関するソフト面やハード面の両方の内容について意見を頂く形で進行させて頂きました。

【質疑②】

・器（校舎）というのはどのような一貫校をつくりたいかといった教育の理念があって、初めて器（校舎）の内容が決まってくると思います。本来は教育の理念等の説明をきちんと受けていないと、話し合いが十分できないのではないかと考えます。

学校は地域の中にあるものだと認識しています。学校は地域の宝だといわれるように、周りに民家がない新校舎の敷地のような環境だと、特に小学生は今後の子どもたちに与える影響が多大なものになるのではないかと心配されます。

また先ほど教育委員会から説明があった、質問1「なぜ川里地域において学校新設を検討しているのか」について、公共施設等総合管理計画の観点とはどのようなことなのか、お答えをお願いします。

回答：器（校舎）について議論するには、考え方や理念を発表する必要があるという事は、前回ワークショップでも意見を頂いていました。そのご指摘に伴い、今回は一番最初に教育委員会から「事業計画について Q&A」を説明させて頂きました。

学校は地域の中にあるべきではないかという事については、「地域の宝である学校づくりがまちづくり」とよく言われているのは十分に認識しています。今回のワークショップでも、そういった視点から、具体的にこのような形であれば「より宝になるでしょう」「より子どもたちのためになるでしょう」といった意見をたくさん頂きたいと思っています。これに関しては我々も同様の認識を持っています。

公共施設等総合管理計画の観点についてですが、資産管理課という部署で、公共施設等総合管理計画を作成しており、学校に限らず市内全ての公共施設の状況を確認して、人口減少等の状況等を考慮して、どの施設を残していくか、どの施設を維持していくかの計画を検討して整備を進めています。全ての施設を大規模改修できればもちろんそれが一番良いのですが、市内に学校が26校あるので、財政状況を踏まえてどの施設を優先で維持・改修していくかを検討しています。そういった計画を踏まえると、全ての学校を大規模改修することが難しいということなどを書かせて頂いています。

【質疑③】

・公共施設等総合管理計画についてですが、川里地域は3校を1つにすることは一応決定なのでしょうか。これは架空の基本構想という感じでしょうか。必ずしも統合するわけではないということですか。今回のワークショップについては、それが決定事項という前提条件で進んでいませんか。

回答：公共施設等総合管理計画は現在の公共施設の状況をまとめて整備方針を示したもので、具体的に統廃合等の検討をしたものではないので、川里地域3校を1つに統合することが決定しているわけではありません。今は方針に基づいて皆さんにご意見を伺っている段階です。

昨年の7月と2月に行った意見交換会で、皆さんから「具体的なハードやソフトの内容が見えてこない」と、賛成も反対もできない」といった意見を多く頂きましたので、今回のワークショップではある程度の具体的な学校設備計画を示したうえで意見を頂きたいと考えておりました。

教育委員会としては、川里地域で2023年度から取り組んでいる小中一貫教育の成果、共和小学校の人口減少、広田小学校と共和小学校のクラス数の不足、校舎老朽化の状況を踏まえ、3校を統合して1つの学校施設にしていくことが良いのではないかと考えてこの取り組みを進めています。

#### 【質疑④】

- ・今回のワークショップ行っても、統合はしませんという結果になった場合は、ワークショップの意味がなくなってしまうませんか。施設の中身まで検討するという話にであれば、統合が決定してからでないと、何の意味もなさないのでないでしょうか。

回答：教育委員会としては、皆さまのご意見を基本構想・基本計画に反映させた上で、取り組みを進めていきたいと考えています。また、今回のワークショップは施設整備を検討する経過の一部で、ワークショップの結果が今後施設整備を行う中で一つの根拠になっていくのではないかと思います。

ワークショップでこのような意見がありましたというのも大切な資料になると考えています。

#### 【質疑⑤】

- ・今回の統合に関して、あまりに乗り気ではありません。私が住んでいる屈巢地区では、小学校の近くというのが一つの要因になって最近分譲物件が出てきているように見受けられます。それがなくなった場合に、ここに書いてあるように、子育て世代を呼び寄せることが可能なのかと少し疑問に思います。

回答：家を買うのに学校が近くにあるという条件を考える方もいれば、スクールバスを出してもらえるとということが、子育てや家を構えるのに一つの条件と考えている方もいらっしゃいます。新設校を造って、より魅力のある学校にして、新しい住民を取り込んでいきたいというのが教育委員会の考えとなります。

#### 【質疑⑥】

- ・今ワークショップで討論していることが、最終的にどこで誰が決めるのかを知りたいです。

回答：皆さんから基本構想・基本計画の意見を頂いて、改めて意見交換会をさせて頂きます。その上で、最終的決定するのは議会になります。教育委員会か

ら議会に提案して、議会で議員の皆さまが承認されれば決定になります。議会へは教育委員会が計画を提案するので、皆様のご意見を伺った上で、こうだと思った案を提案し、議会の承認を頂く形になります。

#### 【質疑⑦】

- ・何度か意見交換会に参加させてもらったのですが、参加者は少ないです。参加者がしっかり理解しているという雰囲気も一切感じられません。意見交換会をやって、そこでいろいろな反対意見や賛成意見が出たとしても、それが結局生かされていないように思われます。教育部長の認識では、意見をしない方は賛成だという認識ではないかと私は捉えています。

そもそも参加しない方や意見を言わない方は興味がないと思われまます。教育委員会は、皆がこの問題について意識して考えてもらえるように働きかけることが非常に大切だと思います。今回ワークショップを開くのはよいことだと思っておりますが、この問題をより多くの人に広げないといけません。そういった努力を今以上にしていきたいと思っております。そして意見交換会の意見をきちんと生かしてほしいです。

#### 【質疑⑧】

- ・まだ義務教育学校にするのか、小中一貫校にするのか分かっていないので、今日話し合うために用意された案について、前提となる考え方を教えてください。

回答：小中一貫校と義務教育学校では、だいぶニュアンスが変わってくるので、平面プランの内容にも細かいところで影響がでてきます。今回は、どの案も小学校部門と中学校部門を分けた計画例として作成していますが、教育の内容を反映した平面プランまでは考えていません。どこの敷地にどのように建てればよいかという考え方を検討した計画になります。

教育の内容を反映した平面プランを作成するためには、教育委員会で教育方針等を決定してもらった上で、その教育に適した部屋取りなどを決めていきます。ただし、全体のボリューム感はそこまで大きく変わることはなく、同じような規模面積になります。そのため、今回はどのような土地利用をやればよいか分かるように目安としてプランを作っています。このプランがこのまま具体的な案として将来動いていくということではありません。

新築するならこのくらいのボリュームで、こうすれば2階建て、こうしたら4階建てにしないと全てが入りませんというような形で作成しているので、ここに教室や図書室があつてというような細かいものは、今後検討していく内容になります。

6. 計画説明（全5案）

- 1案 敷地拡張なし・南側グラウンドパターン案
- 2案 一部 敷地拡張・北側グラウンドパターン案
- 3案 北西側 敷地拡張・2階建て案
- 4案 北西側 敷地拡張・4階建て案
- 5案 北西側 敷地拡張・改修+増築パターン案

7. グループワーク

- i) 6人×3グループに分かれて意見交換
- ii) テーマ「①敷地利用、②平面プラン、③複合施設・機能」
  - ・1案・2案についての意見交換
  - ・3案・4案についての意見交換
  - ・5案についての意見交換

8. 発表

Aグループ（※発表シートに関しては別紙参照）

① 「敷地利用」

○1案・2案

- ・ふるさと館の土地を利用する場合、しだれ桜がどこに行ってしまうのか。

○3案・4案

- ・敷地拡張は絶対にやらなくては今回の計画は困難だと思う。
- ・拡張しても、ふるさと館を残すことができるし、ふるさと館まで手を加えないで敷地が利用できるのが良かった。
- ・南側グラウンドで北側校舎が良い。
- ・校舎内が広々としていて過ごしやすい。

○5案

- ・ふるさと館が残るのは良い。

② 「平面プラン」

○3案・4案

- ・3案は校舎内が広々として過ごしやすい。
- ・3案はバスの車両と正門が近くて危険ではないか。
- ・3案は2階建てに収まって小学校・中学校が分かれているのが良い。
- ・4案は小学校・中学校のゾーンが分けられていないのは良くない。
- ・4案はプールが屋上というのが良くないのではないかと思う。
- ・4階建てだと風の影響があることも懸念点
- ・4案は高学年が上の階になってくると思うが、エレベーターが常時使えるわけでも

ないので、3 階まで敷地利用と建設計画を考えたほうが良いのではないかと。

#### ○5 案

- ・移動教室で生徒が動く距離が長いのが手間。

#### ③ 「複合施設・機能」

##### ○1 案・2 案

- ・地域の図書館が入っているところが管理上良くない
- ・ふるさと館を残すという観点からも良くない。

#### ④ 「その他」

##### ○1 案・2 案

- ・1 案は仮設校舎の 2 年間で長いのではないかと話がありました。最大で 3 年間も仮設で生活する生徒が出てくる可能性もあるので、子どもたちのことを考えると良くない
- ・仮設校舎を造ることはお金の有効利用という部分でも良くないのではないかと。
- ・給食センターや自校給食はどのような区分けになってくるのか。

##### ○5 案

- ・校舎の形がかっこよくない。
- ・既存の校舎を残すと少しはコスト削減できる。
- ・駐輪場の場所が仮設校舎の建設場所と重なってしまうので、仮設校舎を使用している時にどうするのか。

#### ○まとめ

- ・基本的には現在の 3 つの小学校と中学校をそのまま残したいという意見があります。この案の中から建設計画を選ぶとしたら 3 案が比較的良かったという結論が出ました。しかし、3 案も校舎配置や敷地利用などの細かいところを見ていけばまだ課題はあるのかなと感じています。
- 1・2・4・5 案は不自由になりそうところが少し多いと感じました。

#### **B グループ** (※発表シートに関しては別紙参照)

#### ① 「敷地利用」

##### ○1 案・2 案

- ・土地が狭い。
- ・グラウンドが北なのは良くない。

### ○3案・4案

- ・校地を広げることに関しては概ね賛成。

### ○5案

- ・中庭の利用法で独自性を出せるのではないか。
- ・新築とは違って、既存の校舎が残せるところはありがたい。

## ②「平面プラン」

### ○1案・2案

- ・小学校の出入り口が見づらいところがあり危険。
- ・駐車場とプールが近くて児童がその間を移動するのは少し危険ではないか。
- ・学童が学校側から少し遠いのではないか。道路を挟んでいるので、道路を渡ることとも危険になる。
- ・プールの小学校・中学校の共用の使用について。
- ・小学校と中学校エリアの違いが分かりづらい。

### ○3案・4案

- ・3案・4案が一番いい意見が多かった。
- ・4階でも良いのは現実的には分かるが、子どもたちの発達の状況や障害のある生徒のことも考慮すると、4階はややネガティブな意見が多かった。
- ・小学校と中学校の融合については、どうせ一緒になるのであれば、全体を1つにしたほうが良いという意見もあれば、分けたほうが良いという意見もあった。
- ・4階になると、下の階で火災があると防災面では心配だけれども、洪水があった場合は4階のほうが逃げられるという意見があった。
- ・エレベーターがどこに入ってくるか。

### ○5案

- ・アプローチが遠い。
- ・中学エリアから駐車場までが遠い。
- ・他の案よりも特別教室が多いのはどうしてか。
- ・他の案にはあった給食室が見当たらなかったのか、どこにできるのか。

## ③「複合施設・機能」

### ○1案・2案

- ・ふるさと館をぜひ残してほしいという意見が多い。
- ・図書館や教育支援センターなどを今までどおり残してほしい。可能であれば移転や新築してもいいという意見もあった。
- ・学校図書館と市の図書館は役割や機能が違うので、図書館はこのまま残してほしい。

い、分けたほうが良い。

- ・もし一緒になってしまうと防犯上の面でどうなのか。
- ・学校の中に施設が入るのは悪くはないので、複合化してほしいという意見もあった。

#### ○3案・4案

- ・図書館に関しては、分けられるのであれば分けたほうが良い。図書館を動かさなくてよいなら、そのほうが良い。
- ・ポプラ館が児童クラブになるのは、まとまりが一番良いのではないか。

#### ④「その他」

##### ○1案・2案

- ・バス通学が決定なのかどうか。

##### ○3案・4案

- ・児童クラブやテニスコートが道を挟んで配置されるとなると、歩道橋を造ってそこを渡れるようにすればいいのではないか。
- ・しだれ桜や、中学校に入ってすぐのところにあるシンボルツリーはどうするのか。

##### ○5案

- ・大雨が降った時に土地の低さは大丈夫なのか。

#### Cグループ (※発表シートに関しては別紙参照)

##### ①「敷地利用」

##### ○1案・2案

- ・敷地が狭いのでは無理だと思う
- ・約700人の子どもたちを今と同じような規模の敷地に納めるとするのは少し難しいのではないかと思う。

##### ○3案・4案

- ・面積が広がったのがすごく良い。

##### ②「平面プラン」

##### ○3案・4案

- ・生徒の規模から考えてアリーナができたのは良かったと思う。
- ・プールの設置階を体育館の上にするのは、管理の計画上どうなのか。
- ・校舎について、集約はされるけれど4階は高いのではないかという話があった。

- ・校舎が分散化されるよりは1つのほうが良いのではないか。
- ・3校分の駐車場700台は用意されているのか。

③「複合施設・機能」

○3案・4案

- ・既存のふるさと館のエリアの建物が残されることはよい。

④「その他」

○1案・2案

- ・グラウンドゴルフ場は1案・2案の中でも残してほしい。

○3案・4案

- ・小中一貫校になる場合は、今ある市の施設はなるべく手を付けずに3案と4案を私たちのグループの話の中では推しています。

○5案

- ・道路を隔てると危険ではないかという意見があります。
- ・校舎が分割で建てられ2棟になると、分離されてしまひとつなではないかと思う。やるのであれば新しいものを建ててほしい。

○その他の意見

- ・フラワー号を中学校のところに止めてほしい。今はふるさと館か花久の里で止まっているので、フラワー号に中学校まで来てもらえるとうよいのではないかという話がありました。
- ・フラワー号を通学に利用できないかという意見がありました。雷が鳴っている時や雨が降っている時などに、通学が遠い方がいるので大変だと思う。川里小中学校まで延びてくれれば通学に利用できるのではないかという意見があった。
- ・図書館の利用についてですが、管理はどこが行うのか。やはり今のままの施設として残してほしい。複合化するのは困るという意見がありました。
- ・城山学園ともう一つの春日部の学校が一貫校ですが、その中で城山学園は特認校になっています。学校の建物ができても、実際に他からも人を寄せなければならないような状況も起こっているのでは、ゆっくり考えるべきではないかと思います。併せて今までの小学校を残すことを検討してほしいという意見も出ました。
- ・今までやってきている小学校・中学校の連携教育の効果もあるということでしたので、そういった取り組みを生かしながら、今までの校舎の在り方も含めて、もう一度検討して小学校も中学校も残してくださいというのが一つの意見としてありました。

## 9. 講評・閉会/事務連絡

発表について講評

第3回ワークショップの案内について連絡

## 10. 質疑応答

### 【質疑①】

- ・次回、新設校計画のまとめということで、このワークショップ全体をまとめた最終案が出てくるわけでしょうか。もしそうならば、私たちは市民の代表ではないので、鴻巣市民の代表意見として扱われるとと、少しどうなのかなと思います。

回答：ワークショップを開催する、いつもどのワークショップをやってもその話が出てきます。参加者が責任を取らされるような変なイメージがあると思いますが、ワークショップはそういったものは一切ありません。

議論を進めるためにも次回には1つの案としてまとめていかなければいけません。当然このワークショップのご意見は反映しますが、他にもアンケート、地域説明会、行政の教育委員会の考え方など、いろいろな形を加味して計画案を作成します。次回までの3カ月間で色々な意見を集約します。ワークショップで頂いた意見は反対意見も含めて、一つの材料とさせていただきます。しかし、危惧されているような鴻巣市民の代表意見などとして扱うことはありませんので、安心していただいて結構だと思います。

### 【質疑②】

- ・前回の結果はホームページで見ましたが、ワークショップの内容以外に、いろいろな質問や意見が出ています。そのこともきちんと報告してして挙げてほしいと思います。

回答：ワークショップは行政に対して質問をする場というよりは、今後に向けて考え方に対して意見を頂く場という意味合いが高いです。前回一番大きな話題になりました、「小中一貫校の教育の考え方について、前提になれば先に進まない」という意見があったので、これは避けて通れない大きな意見ということで、教育委員会から説明させていただきました。しかし、全ての意見や質問に一つ一つに答えることはワークショップの趣旨ではないと考えています。もし必要であれば、正式に教育委員会もしくは市長さん宛ての意見箱や投書などで市民の意見という形で質問を提出するか、地元の議員さんなどに相談されて、議会で質問を行って正式な回答を頂く形を取ってみたいと考えています。

**【質疑③】**

- ・住民のアンケートを取っていると伺いましたが、その結果を次回には分かるようにしていただけますか。

回答：1,200部を超えるアンケートの回答が来ており、今はそれを集約して、グラフや表にしたり、意見をまとめる作業をしています。アンケートの結果報告書は事前資料と同封で配布を予定しております。また、ホームページにもアップされる予定になります。アンケート結果を踏まえながら、次回の基本計画のまとめ資料の作成する予定になっています。